

2025



TOKOHA
UNIV.



常葉大学 地域貢献センター

活動報告

目次

巻頭言	2
地域貢献センターのご案内	3
地域活性化の人材育成事業	
とこは未来塾 — TU can Project —	5
とこは人材育成プロジェクト	7
地域・社会貢献活動事例	8
地(知)の拠点事業	
地域交流・連携推進事業	20
公開講座	21
自治体・企業等との共催・連携事業	23
産官学連携事業	
産官学連携研究	28
外部助成事業	30
学生団体紹介	
学生団体紹介 —静岡キャンパス—	33
学生団体紹介 —浜松キャンパス—	34

常葉大学・常葉大学短期大学部 学長 安武 伸朗



「自分たちの活動が本当に役に立ったんですね！」とゼミ学生が興奮気味に語ったのは今年の3月、自治体と協働して作った認知症予防の広報物が、地域の包括ケアセンターのスタッフから「これで市民の方にしっかり話ができます」と感謝された時のことでした。学んでいる専門的な知見が社会の現場に活かせることが実感できた瞬間でした。

学生たちがこうしてキャンパスを飛び出して活動することはもちろん、教員が研究成果を楽しく公開する講座や、企業や団体との共同研究など、数多くの地域貢献活動が日々、常葉大学の中で行われています。

常葉大学は教育を通して地域に貢献することを使命としています。4つのキャンパスに10学部19学科・短期大学部3科を配し、約8,000人の学生たちが専門的な学びを続けており、その約9割が県内出身者、卒業時に約8割が県内に就職しています。また教員も教育テーマや研究課題においても地域社会に深く関わり、多くの人から知見をいただきながら研鑽を続けており、まさに地域密着型の実学教育を行っています。

今後も学部・学科と地域貢献センターが協働して多面的に活動してまいります。どうぞ引き続きのご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

常葉大学 地域貢献センター センター長 小野田 貴夫



物価高騰や不安定な世界情勢に加え、地域コミュニティや家族像の変容など、私たちの生活基盤は大きな転換期にあります。こうした不確実な状況に対し、未来を透徹する実践知を備えた大学の役割が、今まさに強く求められています。

地方大学における地域貢献は、大学の利害を越え、本学においては静岡をはじめとする地域社会の持続性と発展に深く関わる重要な架け橋となっています。知的資源の宝庫である大学には、その社会的責任として実質的な成果への期待が年々高まっています。

本学の活動もいま、個々の善意による実践を超え、より組織的・体系的な規模へと移行する転換期にあります。すでに成果をあげている「とこは未来塾」「とこは人材育成プロジェクト」「地域交流・連携推進事業」をはじめ、ボランティアや産業界・行政、地域の文化・遺産の保存など、学生を積極的に巻き込みながら多様な学問領域が交差する実践が、学内外の各所で力強く展開されています。

地域貢献センターは結節点として、静岡の地域課題の一つ一つに向き合い、着実な歩みを積み重ねてまいります。本報告書を通じ、常葉大学の更なるポテンシャルを感じていただければ幸いです。今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

地域貢献センターのご案内

◆地域貢献センター開設の目的

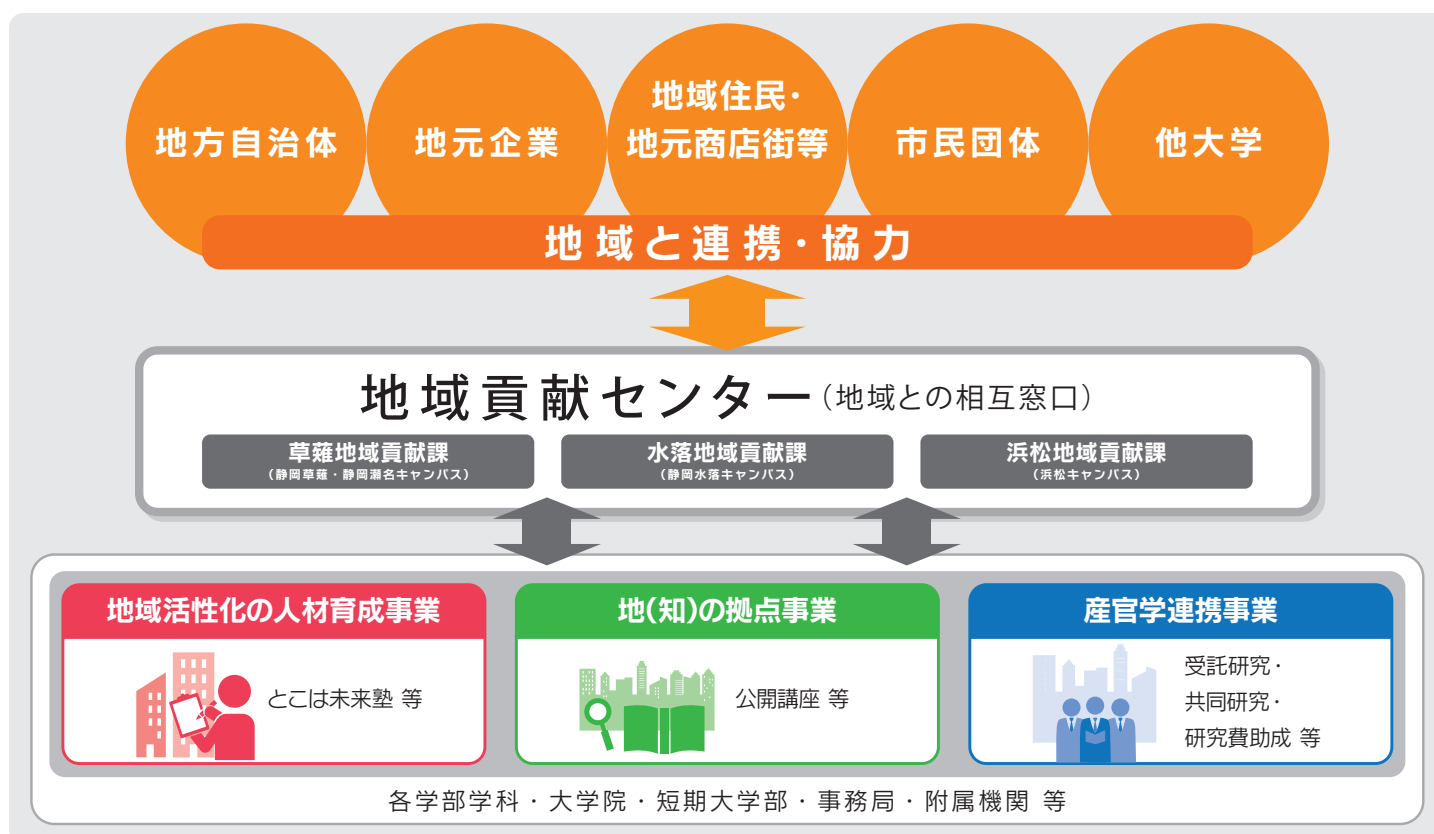
常葉大学は平成30年4月の静岡草薙キャンパス開設を機に、これまで以上に地域に開かれた大学を目指し、組織的に地域への貢献を促進するために、地域貢献センターを開設しました。地域社会における大学の役割は、「地（知）の拠点」として地域の方々の生涯学習の場を提供することや、地域や社会の課題を共に解決し、その活性化や新たな価値を作り出すための積極的な活動が求められます。

地域貢献センターは、地域・社会に貢献する学生支援、地方自治体や地元企業等と本学教職員との連携・協力のコーディネート、地域の諸活動に係る情報収集・分析・調査、公開講座の運営等、様々な取組を通して、地域社会の活性化を図るとともに、地域社会に貢献できる人材を育成していきます。また、地域と大学、地域と学生を結ぶ地域連携の拠点として、地域社会の発展に貢献していきます。



◆取組・業務内容

センター機能



地域活性化の人材育成事業

- ◆地域貢献プロジェクトへの支援（とこは未来塾－TU can Project－）
- ◆ボランティア活動を通じた地域リーダーの養成（とこは人材育成プロジェクト）
- ◆学生ボランティアの要請に対する活動支援
- ◆地方自治体はじめ諸団体との連携活動支援
- ◆学生独自の地域貢献活動への支援

地(知)の拠点事業

- ◆地域交流・連携推進事業
- ◆公開講座の実施
- ◆自治体・企業等との共催・連携事業

産官学連携事業

- ◆企業・行政等との共同研究の推進、マッチング
- ◆産官学および地域連携を推進する事業の企画・実施
- ◆大学間連携の推進
- ◆自治体等との包括的連携の推進
- ◆自治体等における学識者としての派遣

◆包括連携協定先一覧

地域の特性およびニーズに応じた地域連携・交流事業を展開するため、地方自治体、各種団体等との連携・交流協定の締結をしています。双方の持つ経営資源を活用し、地域課題の解決に貢献しています。

No.	協定書の名称	協定締結先	協定締結日
1	松崎町と常葉大学との包括連携に関する協定書	松崎町	平成 27 年 10 月 13 日
2	掛川市と常葉大学との包括的連携に関する協定書	掛川市	平成 27 年 11 月 13 日
3	藤枝市と常葉大学との包括連携に関する協定書	藤枝市	平成 28 年 3 月 24 日
4	静岡市と常葉大学との包括連携に関する協定書	静岡市	平成 28 年 6 月 14 日
5	浜松市と常葉大学との包括連携に関する協定書	浜松市	平成 29 年 3 月 27 日
6	特定非営利活動法人掛川市体育協会と常葉大学 浜松キャンパスとの連携に関する協定書	特定非営利活動法人 掛川市スポーツ協会	平成 29 年 9 月 15 日
7	常葉大学と I Love しずおか協議会との連携・協力に関する協定書	I Love しずおか協議会	平成 29 年 10 月 26 日
8	静岡市文教エリア等の発展に向けた相互協力に係る協定書	静岡市内の 複数高等教育機関等	平成 29 年 10 月 26 日
9	公益財団法人浜松市体育協会と常葉大学との連携に関する協定書	公益財団法人 浜松市スポーツ協会	平成 30 年 7 月 27 日
10	常葉大学と静岡銀行との相互協力及び連携に関する協定書	株式会社 静岡銀行	平成 30 年 8 月 28 日
11	常葉大学と静岡県警察との包括的連携協力に関する協定書	静岡県警察	平成 30 年 11 月 1 日
12	学生ボランティア活動推進に関する協定書	公益財団法人 日本財団ボランティアセンター	令和 元年 12 月 16 日
13	常葉大学と静岡県教育委員会との探究的な学習に関する連携協定書	静岡県教育委員会	令和 6 年 3 月 12 日
14	常葉大学と静岡県教育委員会の包括連携の協定書	静岡県教育委員会	令和 7 年 3 月 24 日
15	健康増進環境の質向上に向けた医療・地域連携モデル共創事業に 関する連携協定書	小田原市 一般社団法人小田原医師会	令和 7 年 10 月 9 日

◆地域貢献活動実施件数報告

令和 7 年度の地域貢献活動実施件数は以下のとおりです。

(延べ数)

令和 7 年度〈年間集計〉	大学主催		学生企画		外部依頼			合計	
	活動件数	活動人数	活動件数	活動人数	募集件数	活動件数	活動人数	活動件数	活動人数
子育て・教育	21	740	37	339	94	94	590	152	1,669
障がい・健康福祉	0	0	0	0	50	19	103	19	103
一般スポーツ	0	0	2	4	24	26	205	28	209
防災・防犯	2	25	2	11	18	37	164	41	200
地域活動	30	402	4	45	159	132	683	166	1,130
合計	53	1,167	45	399	345	308	1,745	406	3,311

とこは未来塾 — TU can Project —

本事業は、学生ならではのユニークな「視点と発想」をもち、「熱意と創意」に満ちた自主的・自発的な取組に対し、大学から教員アドバイザーによる助言や活動資金の援助等の支援を行っています。事業規模によりベーシックプランとライトプランがあり、開かれた大学づくりプロジェクト(A)、地域貢献・活性化プロジェクト(B)、現代的課題解決プロジェクト(C)の3つの分野(タイプ)で募集しています。この事業に取り組むことで、大学が立地する静岡県を中心とした地域社会への貢献を果たすとともに、学生の若い力を地域の活性化に結び付け、社会対応力の醸成に繋がることを期待しています。

◆令和7年度採択事業一覧

ベーシックプラン：本事業目的に即し、具体的かつ発展性のあるプロジェクトに対応するプラン

No.	タイプ	テーマ	グループ名	代表学生所属
1	B	にしなキッズカレッジ2025	リンク西奈	教育学部 学校教育課程
2	C	常葉大学×ゆたかカレッジ共同プロジェクト ～フラットな場から始まる未来～	赤塚ゼミ	保育学部 保育学科
3	B	地域と学生がつながるマルシェ	地域貢献センター 学生スタッフ Link	造形学部 造形学科
4	B	「運動×地域」で未来をつくる！ みんなの健康増進プロジェクト	プリラボ	健康科学部 静岡理学療法学科
5	B	「妊婦さんも安心」体にやさしいジェラート	Gelato lab	健康プロデュース学部 健康栄養学科
6	B	体験格差を減らす社会を創るために	ぶれぐるラボ	健康プロデュース学部 スポーツ健康科学科
7	B	浜松発！なるこでGo！	Brighten up (ブライトンアップ)	健康プロデュース学部 スポーツ健康科学科
8	B	ツボを使ったセルフケア ～健康増進・意識向上への貢献～	美鍼会	健康プロデュース学部 健康鍼灸学科

ライトプラン：本事業に挑戦しやすく、事業負担の少ないスタートアッププラン

No.	タイプ	テーマ	グループ名	代表学生所属
1	B	合唱を通して音楽の魅力や楽しさを味わおう！	おんせん♪	教育学部 学校教育課程
2	B	とこスポ～大学生と一緒に体を動かそう！～	とこスポ企画班	教育学部 学校教育課程
3	B	浜松駅南地区ガイドマップ(概要版)の作成	浜松駅南地区活性化 プロジェクトチーム	経営学部 経営学科
4	B	「SNS」の活用や行政・企業と連携して取り組む 野菜摂取啓発活動(2年目の試み)	トコハ Health Nutrition グループ	健康プロデュース学部 健康栄養学科
5	B	自然体験による子どもの成長	Sun & Leaf	健康プロデュース学部 保育健康学科
6	B	災害に備えてできること	ThunderBirds	健康プロデュース学部 スポーツ健康科学科
7	B	浜松をビーチ・マリンスポーツの聖地に！ ～ビーチラグビーの知名度向上に向けて～	T4H ～ Try For Hama ～	健康プロデュース学部 スポーツ健康科学科
8	B	うごキッズ・フェスタ	トコトコ稲っち	健康プロデュース学部 スポーツ健康科学科

◆取組事例(一部抜粋)

地域と学生がつながるマルシェ／地域貢献センター学生スタッフ Link

地域貢献センター学生スタッフ Link は、地域の子育て支援と学生の地域参画を目的に、ハマユキプロジェクトと連携し、大浜公園でマルシェを開催しました。本学の学生団体や、地域で活動する一般団体など計9団体が参加し、シールラリーや商品販売、ワークショップを行いました。身近な公園を会場としたことで、保護者の方から「安心して参加できた」とのお声をいただき、約200人の親子が来場しました。運営面への評価や他団体との繋がりも得られ、今後に生かす学びとなりました。一方、イベント広報に課題が残ったため、今後改善していきたいです。

*ベーシックプラン



浜松発！なるこで Go！／Brighten up (ブライトンアップ)

スポーツ健康科学科の学生有志は、インターネット普及による子どもの運動不足や地域の繋がり希薄化といった課題に着目し、視覚、聴覚など五感を刺激して脳を活性化させる「なるこダンス」を活用し、心身の健康促進と世代間交流を目的に活動を行いました。浜松まつりのラッパや富士山をイメージした楽曲を制作し、浜松の特産品や名所を取り入れた創作振り付けを考案しました。ダンスの披露と体験型レクチャーを実施し、地域住民への普及と交流の活性化につなげました。年齢問わず多くの観客にご参加いただき、地域の一体感や世代を超えた交流の輪を広げる貴重な機会となりました。

*ベーシックプラン



合唱を通して音楽の魅力や楽しさを味わおう！／おんせん♪

学校教育課程音楽専攻の学生有志は、地域とのつながりを深め、音楽の魅力子どもたちに伝えることを目的に、静岡市内の小中学校やこども園で合唱指導や演奏披露を行いました。清水岡小学校、東中学校、だきしめこども園の2校1園で活動し、学習曲・合唱発表会に向けた指導や合唱披露、音楽劇などを実施しました。子どもたちや先生方を対象に実施したアンケートでは、「楽しかった」「また実施してほしい」といった声が多く寄せられました。一方、発達段階に応じた関わり方に少し課題が残ったため、今後の活動で改善していきたいです。

*ライトプラン



浜松駅南地区ガイドマップ(概要版)の作成／浜松駅南地区活性化プロジェクトチーム

経営学科の学生有志は、常葉大学浜松キャンパスや浜松調理菓子専門学校校の移転、スズキ株式会社の新社屋建設により通勤・通学者の増加が見込まれる「浜松駅南地区」に着目し、地域の魅力発信を目的に地図の作成を行いました。砂山町・寺島町・北寺島町・龍禅寺町を実際に歩いて店舗や施設を選定し、掲載許可を得て「わたしの浜松駅南マップ！」を完成させました。地図には空欄を設け利用者が自由に書き込めるよう工夫しました。今後は駅や市役所等で配布し、まちなかの賑わい創出や地域への関心・来訪促進につなげていきたいです。

*ライトプラン



とこは人材育成プロジェクト

本事業は、静岡県教育委員会が主催する「静岡県青少年指導者級別認定事業」の一環であり、本学学生をはじめとする参加者の日頃の地域貢献活動やボランティア活動を評価する事業です。本学の建学の精神「より高きを目指して～ Learning for Life ～」及び教育理念に基づき、将来につながる資質や専門的な能力を高め、地域の活性化に貢献する存在、地域のボランティアリーダーとして活躍できる人材の育成を目的に実施しています。

参加者はボランティア活動を実施後、地域貢献センターに活動報告書を提出し、活動の評価・認定を受けます。これを繰り返し行い、期間内に累計活動時間数が一定の基準を満たすと、静岡県教育委員会から「静岡県青少年指導者（初級・中級）」の認定を受けることができます。

令和7年度は青少年指導者の初級資格の認定を53名が受け、中級資格は11名が修了しました。

◆活動事例

静岡県青少年指導者級別認定事業
初級認定者



健康プロデュース学部 健康栄養学科
1年 古木 美智子 さん

大学入学を機に、以前から関心を持っていたボランティア活動に挑戦してみようと考えました。その中で、何か目標を定めることがより意欲的な取組に繋がるという思いから、この事業に参加しました。能登半島の珠洲市での災害支援ボランティアでは、土砂の片付けや家財の運び出しを行いました。また、現地での学びや感じたことを、浜松市内の講習会や防災訓練の場でお話しする機会をいただき、地域の方々が災害に対して考えるきっかけになって欲しいと感じています。今後のボランティア活動でも一人ひとりの会話を大切にし、何をしたいのか、どうすれば喜んでもらえるかを第一に考えるよう意識し、次年度は中級取得を目指して活動していきたいと思えます。

静岡県青少年指導者級別認定事業
中級認定者



教育学部 学校教育課程
2年 松本 みなみ さん

地域貢献センター学生スタッフ Link に所属しており、元々地域貢献活動には積極的に参加していましたが、より責任を持って活動できるようになることを目的に、本事業に参加しました。学内で実施しているフードドライブの企画と、小学生の運動不足解消を目的に、地域の放課後児童クラブと連携して様々なスポーツで体を動かす活動の企画を行いました。活動を企画してみて、自身で一から内容を考える大変さや、一緒に活動する仲間との連携・役割分担・報連相・事前準備の重要性を実感しました。今後の活動では、計画を立てて行動し、仲間との連携や報連相を丁寧に行って活動していきたいと思えます。

◆県内高校生を対象とした事業「とこは人材育成プロジェクト for High School」

「とこは人材育成プロジェクト for High School」は、「総合的な探究の時間」等で課外活動に取り組む県内高校生を対象とした事業です。令和7年度は県内8校が参画し、59名の高校生が青少年指導者の初級資格を取得しました。また、3月25日には草薙キャンパスで認定証授与式と「防災」をテーマとした研修会を開催しました。研修会に参加した高校生・大学生は、講義やワークショップを通して、災害時に自ら考え行動する力や周囲と連携する大切さを学びました。今回の取組は、世代を越えた学びを通して、地域とつながる力を育む機会となりました。



◆子育て・教育

田んぼで生物観察会を実施

連携・協力 登呂博物館

草薙C
教育学部

7月12日、登呂博物館と学校教育課程久留戸涼子ゼミが連携し、小学生対象の「登呂の田んぼで生物観察会」を開催しました。理科専攻の学生9名が活動をサポートし、環境指導員の守屋司子先生にもご指導をいただきました。田んぼの水路で生物を採集し、スケッチをし、図鑑を使って名前を調べました。採集生物には在来種だけでなく、アメリカザリガニなどの外来種もありました。スケッチを地図に貼って子どもたちが発表し、生き物マップを作成、最後に学生が在来種や外来種などの話をしました。子どもたちからは「たくさんつかまえた」「お友達の発表を聞いて楽しかった」などの声が寄せられ、学生にとっても貴重な経験になりました。



近隣のこども園で英語活動を実施

草薙C
外国語学部

5月29日及び6月5日、外国語学部英米語学科の3・4年生18名が近隣のこども園を訪問し、英語活動を行いました。本活動は「児童英語教育」の授業の一環として実施され、学生が授業で学んだ英語絵本の読み聞かせや英語ゲームを実践する機会となりました。読み聞かせでは『We Are Going on a Bear Hunt』や『From Head to Toe』を用い、歌や体操、動きを取り入れて工夫しました。また、英語カルタや「だるまさんの一日」を英語で行うなど、学生が考案した活動に子どもたちは元気に参加していました。学生にとって、現場で学びを深める貴重な経験となりました。



「外国につながる児童生徒のための進路ガイダンス」で報告

連携・協力 焼津市

草薙C
外国語学部

8月3日、焼津市和田地域交流センターで開催された「外国につながる児童生徒のための進路ガイダンス」において、外国語学部の学生2名が体験談を発表しました。本ガイダンスは、外国にルーツを持つ小中学生と保護者を対象に、進学や将来への理解を深めることを目的としたものです。学生たちは、学校生活での苦労や日本語習得の工夫、進学準備、大学生活、将来の夢などを紹介し、進学が選択肢を広げることや、自らのルーツを大切にすることを伝えました。参加した児童生徒は真剣に耳を傾け、交流会では保護者からも質問が寄せられました。学生にとっても、自身の経験を振り返り、それが次世代の力になることを実感する機会となりました。



サイエンスプロジェクトでブースを出展

連携・協力 サイエンスプロジェクト実行委員会

草薙C
社会環境学部

11月30日、吉原まちづくりセンター・吉原小学校で開催された「第20回サイエンスプロジェクト in・Fuji」に社会環境学科の石田教授、山田准教授のゼミ学生がブースを出展しました。本イベントは、子どもたちの科学への興味・関心を高め、科学的な見方や考え方を育み、理科教育への理解を深めることを目的としています。石田ゼミは魚型しょう油入れを使ったおもちゃ作りを通して水圧や浮力を学ぶ体験を行い、山田ゼミはペットボトルキャップを再利用したアクセサリ作りを行い、プラスチックリサイクルや環境問題について楽しく学べる内容としました。今後も科学の魅力と環境課題を発信する活動を継続していきます。



◆子育て・教育

子育て支援プロジェクトを実施

草薙C
短大保育・
保育学部

幼児教育支援センターでは、保育学部及び短期大学部保育科の学生と教員の協働による、地域の子育て家庭を対象とした子育て支援プロジェクトを展開しています。令和7年度は、「保護者のしゃべり場」「お姉さん・お兄さんと遊ぼう」「お出かけマップづくり」「お月見だんごを作ろう！」「親子ともに心地よかったですとおんぶ」など、全8回の支援活動を企画し、多くの親子に参加していただきました。各回、親子に楽しんでもらえるように工夫を凝らして実施し、学生にとっては、子育てに奮闘されている保護者のお話を聞いたり、子どもと触れ合う中で、新たな発見や気づきがあったりと、大きな学びとなりました。



親子の自然体験活動で指導実践

草薙C
短期大学部

連携・協力 富士宮市教育委員会社会教育課

5月10日に「親子レクリエーション講座」(主催：富士宮市教育委員会社会教育課)で、短期大学部保育科の授業「レクリエーション援助法」の受講生12人が、富士宮市麓の「麓の森の大きなお家 まほろば」にて親子対象の自然体験活動の指導実践を行いました。学生は「5月の森やはらっぱには、何があるかな?」「幼児から小学校低学年の幅広い年齢層に合ったあそびは何かな?」と想像力をふくらませて、授業初回から準備を重ねてきました。あいにくの雨でしたが、色に注目して草花を集める遊びや、集めた草花で万華鏡を作るなど、工夫を凝らした遊びが子どもたちの心をとらえ、自然な形で自然に親しむ楽しい時間となりました。



キッズオープンキャンパス 2025 を開催

浜松C
地域貢献センター

連携・協力 浜松市北消防署、静岡県細江警察署、自衛隊静岡地方協力本部、HondaFC、(株)静岡銀行、鹿島木材(株)、ビーチラグビー東海

7月19日、浜松キャンパスで、地域の子どもたちに大学を開放し学びの場を提供する「キッズオープンキャンパス 2025」を開催しました。13回目の開催となった今年度は、調理・科学・食育・健康・工作・スポーツ・防災など、各学科の学びや日頃の活動を活かした23講座のほか、地元、消防や警察、自衛隊、ホンダFC、ビーチラグビーなどPRブースもあり、地域と連携したイベントになりました。今年は特別企画として、キャッシュレス化が急速に進む中、お金の大切さを子どもたちに伝えようと経営学科の学生が静岡銀行と連携して「上手に“おかね”を使おう！」講座を開設しました。講義では硬貨や紙幣の秘密をお金に関するクイズを交えながら説明し、参加者は実際に500円玉を取り出し、隠された「500円」の文字を見つけ、学びを深めました。



また、静岡銀行の行員と共同で作成したオリジナルすごろくでは、マス目には「300円のお菓子を買った」「お手伝いをして100円もらった」などお題が書かれており、交換手段としてのお金、行動の価値を図る尺度としてのお金など、多方面に渡る意義を学びました。また、浜松市が「ビーチ・マリンスポーツの聖地化」を掲げ、ビーチラグビーにも力を入れてきたことを受け、スポーツ健康科学科の学生がビーチラグビーの魅力を伝えようとビーチラグビー東海と連携してラグビーボールを使用したストラックアウト体験やPR動画の上映を行いました。

このイベントには、約540名の親子が参加、263名の学生が参加し、学生ボランティア意欲を高めるきっかけになっています。

◆子育て・教育

健康・スポーツフェス 2025 を開催

浜松C
地域貢献センター

連携・協力 浜松市、浜松市教育委員会 他

11月1日・2日・22日の3日間、浜松キャンパスにて、大学の専門知識を活かし地域の方々に健康を見直す機会を提供するとともに、スポーツの楽しさを伝えることを目的とした「健康・スポーツフェス2025」を開催しました。健康栄養学科とスポーツ健康科学科の学生が主体となって実施した測定コーナーでは、骨の強さや丈夫さを調べる骨密度測定、柔軟性を測る長座体前屈など、計7項目の測定を行いました。また、静岡県独自の「ふじ33プログラム」を活用したロコモ度チェックも実施しました。参加者からは「自分の体の状態を知ることができてよかった」「学生が親切に測定し、アドバイスをしてくれたので励みになった」などの声が寄せられ、運動や食事など日頃の生活習慣を見直すきっかけを提供することができました。



さらに、期間中はクラブ・サークルの学生による野球・陸上・バスケットボール・サッカー教室も開催しました。サッカー教室では、学年別に分かれたグループでしぼ取りを行って体を温めた後、パス・ドリブル・シュートなどの基本動作に取り組みました。大学生ゴールキーパーを相手にシュート対決が行われ、子どもたちにとって大学生から点を取る難しさを体験する貴重な機会となりました。最後には大学生と子どもたちの混合チームによるミニゲームも実施され、大いに盛り上がりました。そのほか、パラスポーツ体験や家族で楽しめるスポーツ体験会なども実施し、多様な運動の機会を提供しました。いずれの企画も学生が主体となって運営し、活動を通して運営方法を学ぶとともに、子どもたちや地域の皆様との交流を深める機会となりました。

浜松市内のイベントにて
食育ブースを出店浜松C
健康プロデュース学部

連携・協力 (株)ポップチャイルド

11月29日、サーラプラザ浜松で第3回「あーるRあるがまま」が開催され、健康栄養学科の学生3名と小嶋汐美特任講師が参加しました。これは株式会社ポップチャイルドが企画するもので世代間交流ができる居場所を作り、参加者一人ひとりの自己肯定感を高めてもらうことを目的としています。この日は4つのブースが開設され、本学は「食育ブース」を担当しました。



食育ブースでは、4種類のだしの試飲や旬の魚・野菜のクイズを実施し、参加者にはそれぞれのだしの違いや、旬とはなにか、どのように私たちの食卓に並んでいるのかについて知ってもらい、幅広い年代に和食の文化を学んでいただく機会になりました。

「秋を見つけよう！ Nature
Bingo 大会」を開催浜松C
Sun & Leaf

連携・協力 さくら会議

11月29日、磐田市今之浦公園で保育健康学科の学生で構成するサークルSun & Leafは、磐田市中心部の活性化に取り組む「さくら会議」と連携して、イベントを開催



しました。これは、将来保育士をめざす学生らが子どもたちに自然と関わる機会を提供することで五感を養い、親子で楽しんでもらおうと企画したもので、学生たちは参加者とともに公園内を散策しながら、桜の種類や特徴について説明しました。また、公園内の草木を題材に学生が作成したオリジナルビンゴカードを使って「黄色いもの」「ふわふわ」など9マスのビンゴカードに書かれた項目に合う落ち葉や松ぼっくりなどを見つけると、嬉しそうにその形や感触を楽しみました。親子約100人と秋を楽しみ、自然と触れ合う機会を提供しました。

◆子育て・教育

浜松市実証実験「出張！こどもむら」を開催

浜松C
健康プロデュース学部

連携・協力 浜松市産業振興課

浜松市は公共空間である「The GATE HAMAMATSU 跡地」に「森」を創設し、公共空間整備の機運醸成や今後の利活用について考える実証実験「POP UP FOREST」を1か月間実施してきました。特に11月29日には、保育健康学科の学生がその実験にイベント開催という形で協力しました。「出張！こどもむら」と題したイベントでは、学内で集めた落ち葉やどんぐりを浜松の街なかに現れた“森”の空間にまき、子どもたちはその中を探し回りながら、お気に入りの素材を見つけて、自分だけのオリジナルマントに貼りつけたり、どんぐりやウッドチップを使ったマラカスやカスタネットを制作したり、作った楽器を使って音楽に合わせた演奏を楽しみました。その他、炭で火をおこし、マシュマロを焼く体験も行いました。参加した保護者からは、「自宅がIHのため子どもは火を見る機会がない。まちなかで自然体験ができてよかった」と話してくれました。子どもたちはウッドチップの香りを楽しんだり、落ち葉に埋もれてみたりと、思い思いに自然とのふれあいを満喫しました。



同日には「トークセッション」も行われ、保育健康学科の中村俊哉教授が登壇し、「まちなか公共空間を豊かにするためにしたいこと・できること」をテーマに意見交換が行われました。中村教授は、「子どものうちに檜の匂いを嗅ぐなど、五感を働かせる体験はとても重要である。子どもは体験を通して遊びを発展させていくため、浜松のまちなかにも公園ができるとよい」と話しました。

学生との交流を目的に参加された方もおり、学生にとっても貴重な経験となりました。

浜松を健幸にする「2025ハロウィンパーティー」を開催

浜松C
ぶれぐるラボ

連携・協力 遠鉄アシスト(株)、浜松市内企業他

10月25日、スポーツ健康科学科の学生で構成するぶれぐるラボは、浜松城公園にて「2025ハロウィンパーティー」を開催しました。これは、浜松市が推進している「健幸」の啓発や、子どもたちの体験格差の是正、運動に対する無関心層の取り込みを目指して企画したもので、ハロウィンモチーフに仮装をしてお楽しみいただきました。今回は、指定公園管理者である遠鉄アシスト株式会社との共催、浜松市、浜松ウエルネス推進協議会の後援、そして協賛企業(33社)、協力団体(5団体)、他大学や高校から参加したボランティア30名、浜松市美術館の協力のもと、公園全域を使った活動を行うことができました。多くの方からのご支援を賜り、開催することができました。



「YATTO SOCCER CLINIC in HAMAMATSU」に協力

浜松C
サッカー部

連携・協力 ONECLIP(株)

12月15日、本学有玉グラウンドにて「鈴三材木店 presents 第3回 YATTO SOCCER CLINIC」が開催され、サッカー部が運営協力しました。これは、サッカー元日本代表



で、ジュビロ磐田に所属していた遠藤保仁氏が「サッカーで地域を盛り上げたい」と企画したもので、小学生ら約140人が参加しました。サッカー部の学生らは教室運営の補助と受付や駐車場誘導などの業務に分かれて活動し、参加した児童が安全に楽しくプレーできるようサポートしました。当日は、遠藤氏のほか、ガンバ大阪のGK東口順昭選手、愛媛FCのGK徳重健太選手、ジュビロ磐田から栃木SCに期限付き移籍中のMF藤原健介選手、スパンブリーFC(タイ)の大森晃太郎選手らが来場され、小学生にとっても学生にとっても充実した時間となりました。

◆防災・防犯

迷惑防止条例違反ポスターを作成・配布

水落 C
法学部

連携・協力 静岡県警察本部

法学部では、附属常葉高等学校との交流企画として、令和7年7月から静岡県警と連携した防犯啓発活動を継続的に実施しました。「迷惑防止条例違反の防止」をテーマとして啓発用のポスターを作成し、法学部の吉崎暢洋教授および三和結佳准教授が指導にあたりました。作成されたポスターは、JR静岡駅構内において静岡県警と合同で配布活動を行いました。

第1回目の活動は、10月3日16時から実施され、法律学科2・3年生12名が参加し、迷惑防止条例に違反する行為の防止について、駅を通行する人々に呼びかけました。その際、静岡県警防犯アプリ「どこでもポリス」を紹介し、身



近な犯罪情報や不審者情報の確認、防犯ブザーや痴漢対策機能などの活用を促しました。続く第2回目の配布活動は、翌年1月13日8時から実施され、法律学科2・3年生3名が静岡県警と連携してポスター配布活動を行いました。これらのポスター配布活動には、吉崎教授、三和准教授、山田航汰助教も参加しました。迷惑防止条例違反の防止を呼びかけるとともに、「どこでもポリス」の利用を促すこれらの活動は、地域の人々の安全・安心な暮らしを支えるきっかけとなりました。また、犯罪情報や身近な犯罪発生状況を知ることによって防犯意識を高め、地域住民の防犯意識向上に積極的に関わることができたことから、参加した学生は大きなやりがいを感じました。法学部では、これらの成果を踏まえ、今後も静岡県警と連携した防犯啓発活動を継続していきます。

能登半島被災地支援「心のケア活動」を実施

浜松 C
ThunderBirds
Sin Q
健康科学研究科

連携・協力 (公財)日本財団ボランティアセンター、認可NPO法人レスキューストックヤード、柚餅子総本家中浦屋等

9月13日～15日の3日間、ボランティアサークルThunderBirdsと健康鍼灸学科の学生で構成されるSinQ、社会環境学科の学生と健康科学研究科の大学院生、計13名は、(公財)日本財団ボランティアセンターとの共催で能登半島地震の被災地である輪島市・穴水町・能登町で「心のケア活動」を行いました。学生らは、日頃の学びや経験を生かして、工作や足湯、カフェや物品配布会などを企画し、被災地の子どもたちや仮設住宅の住民らを対象に交流の場を提供しました。

穴水町では、昨年同様、認定NPO法人レスキューストックヤードが管理する仮設住宅で活動を行いました。現地で活動するにあたり、穴水町には衣料品店が少なく、洋服を見るだけでも楽しいということを事前に伺い、大学周辺の社会福祉協議会や商店街、地元の高校生などの協力を得て衣料品等を回収しました。1000点を超える品物が集まり、厳選した200点程度を現地で配布しました。



配布会に訪れた方々は、手に取って体に当ててみては楽しそうに品物を選んでいました。室内では、静岡県の銘菓とお茶を提供し傾聴活動を行いました。また、鍼灸学を学ぶ学生による手技と足湯は人気で、高齢者の方々に日々の疲れを癒していただきました。能登町「こぶし」でも同様の活動を行いました。今回の活動では、昨年度に引き続き参加した学生もおり、被災地の状況やニーズは日に日に変わっていくことを改めて実感しました。現地では公費解体が進み、復旧作業が進んでいくと、被害の様子が見えなくなっていました。そのため、災害を教訓に「風化」させない、自分ごとと捉えること、そのために自分たちができることを考え活動の継続を進めていきます。



◆防災・防犯

しずおかランニングパトロールを実施

草薙・瀬名・水落C
地域貢献センター

連携・協力 (株)静岡新聞社・静岡放送(株)、静岡県警察

常葉大学では、静岡新聞社・静岡放送、静岡県警察、賛同企業等で組織された推進委員会が展開する防犯プロジェクト「しずおかランニングパトロール」に継続して参加しています。街中をランニングしながら防犯パトロールを行う取り組みで、本学は令和2年より協賛し、学生有志を中心に定期的に活動しています。令和7年度前期(5～6月)は草薙キャンパスで計5日間実施し、学生18名が参加。専用ビスを着用し、キャンパス周辺を巡回しました。参加学生からは「危険箇所を意識して歩くことで、普段気づかない点に気づけた」「交通安全への意識が高まった」「活動中に小学生が挨拶してくれて嬉しかった」といった声が寄せられ、地域とのポジティブな交流も生まれました。



続く10～11月には、草薙・水落の両キャンパスで計5日間実施し、学生・職員あわせて約30名が参加。起点のキャンパスから周辺の小中学校を重点的にパトロールしました。参加者からは「住み慣れた地域でも危険な道や場所を発見できた」「短時間でも有意義だった」との感想が上がり、活動の実効性が確認できました。本学は今後も、学生・教職員とともに本活動を継続し、日常の見守りと気づきを積み重ねることで、地域の安全・安心に寄与していきます。

浜松市内小学校にてサイバー防犯教室の実施

浜松C
健康プロデュース学部

連携・協力 静岡県細江警察署

6月10日、浜松キャンパスの学生10名が静岡県細江警察署と協力し、浜松市立都田小学校の4年生から6年生を対象に、楽しみながら防犯意識を高めてもらうことを目的とした「サイバー防犯教室」を実施しました。



防犯教室では、ヤング防犯ボランティア団体「しずおか・ぴーす」が作成した「エスピーくんのサイバー防犯かるた」を使い、かるたを楽しみながら日々の生活で起こりうるトラブルについて確認しました。かるたの実施後には、学生が前に立ち、かるたに含まれている内容の一部を取り上げ、それぞれの読み札を児童に読んでもらい、インターネットを利用する際の注意点や犯罪の危険性について分かりやすく伝えました。活動を通して児童と学ぶことができる貴重な機会となりました。

◆一般・スポーツ

浜松市スポーツ協会と連携して陸上教室を開催

浜松C
陸上競技部

連携・協力 (公財)浜松市スポーツ協会

7月27日、陸上競技部の学生5名が、浜松市舞阪総合体育館にて小学生を対象に「足を速くする教室」を開催しました。この教室は、浜松市スポーツ協会との連携協定に基づく活動として、毎年実施しているもので、将来、保健体育の教員を目指す学生がプログラムを考案し実施しています。学生



たちは「走りの三原則」と言われる「腕振り」「もも上げ」「姿勢」による3つ動作について説明し、良い例と悪い例を見せたあと、ドリルを交えながら速く走るコツを伝えました。参加した児童は見本となる学生を参考にしよう見まねで何度も繰り返し練習するうちにフォームがきれいになってきました。学生たちは、学年や個人によるスキルの違いに目を配り、臨機応変に指導内容や説明の仕方を変える等、対応能力を身につけました。

◆地域活動

登呂遺跡での活動
(博物館実習)

連携・協力 登呂博物館

草薙 C
教育学部・
造形学部

教育学部生涯学習学科と造形学部では、地域の文化財や博物館と市民との関わりを学ぶ目的の授業「博物館実習」の一環として、弥生時代の代表的な水田・住居跡である登呂遺跡で田んぼの復元作業を行っています。



5月には代掻きと田植えを行いました。指導員のもと約200㎡の水田を起こし、水を入れて苗を植えました。10月には、稲刈りと稲架掛け(はざがけ)を行いました。稲を干す稲架(はざ)を組み立てます。慣れない作業に戸惑いましたが指導員が補助してくださり、なんとか作ることができました。参加した学生たちは、半年をかけてお米を作ること、ボランティア活動や地域の文化財について学ぶことができました。

心理学を使った
企業課題への取り組み

連携・協力 静岡スバル自動車株式会社

草薙 C
教育学部

心理教育学科3年次科目「臨床・教育フィールドワークⅢ」では、心理学の学びを社会に役立てる方法を実践的に学んでいます。



本年度は、草薙キャンパスの近くにも店舗がある静岡スバルの公式キャラクター「スバリス」および「スバリスアプリ」の活用について取り組みました。グループごとに、スバル車の持つ魅力や、これまでの様々な取り組みを調べるとともに、県内各地域の店舗内のスバリス見学、広報担当者へのインタビューを通して、より親しみを感じるキャラクターになる方法、より使い勝手の良いアプリとなる仕掛けを心理学的に提案しました。学生にとって、就職活動以外で企業と関わる貴重な機会となっています。

国際交流イベント
「はあとふるYaizu」の企画・運営

連携・協力 焼津市国際友好協会

草薙 C
外国語学部

9月21日に焼津市で開催された国際交流イベント「はあとふるYaizu」において、地域連携型授業を履修するグローバルコミュニケーション学科の学生が実行委員を務め、日本文化を体験できる無料ブースの企画・運営を行いました。

約1,300人が来場する中、地域の方々とともに国際交流や多文化共生を楽しみながら学び合う機会となりました。焼津市職員の皆さまと協働して役割分担や運営改善に取り組む中で「チームで働く力」を実感するとともに、地域における多文化共生の重要性を具体的に学び、大きな成長につながりました。



静岡県の新たな
県政ロゴマークに採用

連携・協力 静岡県

瀬名 C
造形学部

令和8年から使用される静岡県の新たな県政ロゴマークに、造形学科2年・鈴木那琉さんのデザインが採用されました。富士山を中心に「幸福度日本一の静岡県」を目指す姿と、県民の幸福実感を大切にする「ウェルビーイング」の理念を調和させたデザインです。県内学生らから寄せられた105点の応募の中から選出されました。今後は知事の記者会見の背景や県政資料など、さまざまな場面で活用される予定です。本学としても、学生の創造力が地域に生かされる貴重な機会となりました。



◆地域活動

特定外来生物「ナガエツルノゲイトウ」の駆除活動を実施

草薙 C
社会環境学部

連携・協力

静岡理科大学理工学部居波研究室、麻機ウェットランドクラブ、昭和設計(株)、(株)自然回復、(株)環境アセスメントセンター、(一社)グリーンパークあさはた、静岡県環境アセスメント協会、(株)静岡銀行

社会環境学部浅見ゼミでは、令和6年度から2年間、特定外来生物「ナガエツルノゲイトウ」の駆除活動に取り組んでいます。本種は繁殖力・再生力が非常に強い侵略的外来植物として知られています。分布が拡大している地域では、駆除に数千万円規模の予算が投じられている例もあり、早期発見・早期駆除が重要な鍵とされています。

静岡県では、巴川水系、青野川水系、柿田川水系で本種の分布が確認されています。特に巴川水系に位置する麻機遊水地には、湿地に特有の希少な動植物が数多く生息・生育しており、貴重な自然環境が広がっています。こうした環境や生き物を守るために、地域の企業・大学・行政などが



連携して「麻機遊水地ネイチャーポジティブ産官学民連携チーム」として、駆除活動を行ってきました。また、駆除作業では本種の断片が多数発生し、わずか1cmほどの小さな欠片からでも再生してしまうという課題があります。そこで浅見ゼミでは、作業の負担軽減と駆除の効率化を目的として、本種が再生する条件を明らかにするための生態的特性の研究も行いました。研究の結果、本種を泥の中のような酸素の供給がほとんどない(嫌気)状態に置くことで腐敗が進むことが明らかになりました。麻機遊水地の豊かな自然環境を守るためには、本種の拡大防止が今後も重要な課題です。今後も、学生主体による駆除活動と、それを支える研究を継続していくことが期待されます。

西奈生涯学習センターとの共催講座を開催

草薙 C
短期大学部

連携・協力

静岡市西奈生涯学習センター、雑貨とドライフラワーの店 MYRTE(ミルテ)

短期大学部日本語日本文学科の専門科目「地域リファイン演習」では、自分たちの身の回りの課題を見つける力を養い、その課題について、グループワークを通して課題解決の手段を導き出し、解決法を企画・プレゼン・実行することで、チームによるプロジェクト遂行能力を養うため、学生が自ら企画・準備・運営する一般市民を対象とした講座を開催しています。11月8日、西奈生涯学習センターで、本科目の受講生7名が小学生を対象に「モールで作る ふわもこカードケース」を開催しました。韓国発の「モールドールカードケース」は、カラフルなモール1本と硬質カードケースを使って手軽に作れるデコレーションアイテムで、参加した小学生たちは、好きな色のモールを使ってオリジナル作品づくりに挑戦しました。親子での参加も多く、会話を楽しみながら制作したり、お気に入りのパーツを持参して装飾を工夫したりする様子が見られ、それぞれが思い思いの作品を完成させていました。



また、11月20日には静岡草薙キャンパスで、本科目の受講生7名がフラワーリースとキャンバスボードを用いて作品を作る「大切な人へ 花とキャンバスで作る贈り物」を開催しました。当日は、藤枝市の「雑貨とドライフラワーの店 MYRTE (ミルテ)」の栗山友美子様を講師にお迎えし、ドライフラワーの種類や扱い方、アレンジのコツなどを学びながらリースづくりに挑戦しました。使用した花材は同じでも、参加者それぞれに個性あふれる作品が仕上がりました。参加者からは「丁寧に教えていただき、大満足」「とても良い気分転換になった」などの声が寄せられ、充実した講座となりました。

◆地域活動

奥浜名湖地域の魅力を発信

連携・協力 奥浜名湖商工会、魚兼商店

浜松C
地域貢献サークル
Cocoa

5月10日、経営学部の学生で構成される地域貢献サークルCocoaは、はままつフラワーパークで開催された



「浜名湖花フェスタ 2025」にて、魚兼商店と共同で開発した「春爛漫コロッケ」の販売と奥浜名湖地域のグルメマップの配布、アンケート調査を行いました。学生らは奥浜名湖地域の魅力を発信しようと事前にPOPを作成し、当日は声掛けで販売促進活動を行いました。また、来場者に手渡したグルメマップに示されている観光スポットや飲食店を紹介しながら、名産品や行きたいお店などを調査しました。今回のアンケート調査の結果を参考に、奥浜名湖地域の魅力を再確認したうえで今後も奥浜名湖商工会と連携し、活動を継続してまいります。

JAとぴあ浜松と連携して三方原大根の惣菜を開発

連携・協力 JAとぴあ浜松

浜松C
トコハ Health
Nutrition グループ

健康栄養学科の学生で構成されるトコハ Health Nutrition グループは、浜松市三方原地域で盛んに栽培される三方



原大根を使った惣菜を3品考案しました。この活動は、JAとぴあ浜松が主催し、地元企業や出荷者と連携した実践型講義「ファーマーズローカルスクール 2025」として実施し、「三方原大根」をテーマに全5回の講義を通して商品開発に取り組みました。講義では、商品を形にするためのプロセスや店舗装飾の工夫、大根の歴史について学ぶとともに、生産者を訪問し、生産者の思いや工夫を知ることができました。また、大根の種まきや収穫を体験し、学生たちは1からメニューを作り上げることの楽しさや、商品開発のコツを学びました。

「いきいき運動教室」を開催

連携・協力 浜松市北行政センター

浜松C
健康プロデュース学部

スポーツ健康科学科の4年生は、地域住民を対象に「いきいき運動教室」を開催しました。これは、健康運動指導士の資格を取得するために必要な健康産業施設等現場実習の一環として行っており、学生のアドバイスを地域の方々の健康増進に役立てていただくことを目的としています。全4回の講座では、初回に握力や柔軟性などの体力測定とカウンセリングを行い、参加者の最終目標や病歴など体の状態を知り、参加者それぞれに適した運動プログラムを作成しました。参加者は、学生とマンツーマンでトレーニングマシンの使い方の指導を受けながらプログラムに沿った運動を行い、運動終了後再度体力測定をし、運動前との比較を行いました。学生にとって、健康運動指導演習の授業で学んだ内容を実践できる貴重な機会となりました。



「しまだ大井川マラソン」にてランナーケア活動

連携・協力 東洋レヂン株式会社

浜松C
SinQ

10月26日、「第17回しまだ大井川マラソン in リバティ」にて、健康鍼灸学科の学生16名、教員3名が東洋レヂン株式会社



(SOMANIKS)との共催で、刺さない鍼による参加ランナーへのケア活動を行いました。当日は、天候にも恵まれ、ケアブースにはたくさんのランナーが訪れましたが、日頃の学習成果を発揮し、1～4年生のチームワークで完走後のランナーへ「刺さない鍼」を貼付することができました。学生らは地域貢献活動を通して、授業で学んだ技術を実践する機会となりました。この経験を活かし、今後も学びを活かした活動を広げ、地域の方々の健康をサポートしていきます。

◆地域活動

浜松市シティマラソンにてランナーのサポート活動

浜松C
健康プロデュース学部

連携・協力 浜松市スポーツ振興課、(公財)浜松市スポーツ協会

2月15日、健康柔道整復学科の学生有志計13名と中井真悟講師は、「第22回浜松シティマラソン」の会場である四ツ池公園自由広場にて、ランナーへのサポート活動としてコンディショニングを行いました。



会場内に設置されたブースには走り終えたランナーを中心に大勢の来場があり、学生たちは日頃の学びで得た知識を活かし、一人ひとりの体の状態を確認しながら丁寧にコンディショニングを行いました。開始直後は緊張していた学生も時間が経つにつれ緊張がほぐれ、参加者に自ら話しかけたり、談笑する姿も見られました。開催時間内に予定していた予約枠はほとんど埋まり、計72名の参加者にコンディショニングを体験していただくことができました。

都田朝市を開催

浜松C
地域貢献センター

連携・協力 地元の生産者・販売者

11月1日・2日、地元の生産者や販売者に参加いただき、農産物や飲食物、加工品などを販売することで地産地消の推進や都田地域の魅力を発信することを目的とした「都田朝市」を大学祭である「キトルス祭」と同日に開催しました。2日間ともに天候に恵まれ、1日目は14店舗、2日目は15店舗が出店し、地元の農産物や、鮎の塩焼き・五平餅・焼き鳥といった多彩な食べ歩きグルメを求めて学生や地域の方々など大勢の来場者で賑わいました。



また、経営学科中津川ゼミの2年生7名が運営に協力し、出店者へ当日運営の説明や駐車場の案内、荷物の搬入手伝いなどを通じて地元の事業者との交流を深めました。ステージ発表では各店舗のイチオシ商品のPRを行い、販売を後押ししました。

浜松まちなか文化祭「市民交流フェスタ 2025」を開催

浜松C
地域貢献センター

連携・協力 浜松市内地域貢献ネットワーク(常葉大学、浜松学院大学)、浜松市

11月23日、浜松市ギャラリーモール・ソラモにおいて「市民交流フェスタ 2025 ～みんなで学ぶSDGs～」を開催しました。このイベントは、浜松市内の学生たちが「SDGs 未来都市・浜松」の推進のために、所属や専門領域の垣根を越え、交流や連携を通してSDGsの目標達成に資する情報発信の場として令和3年度から開催しております。5回目となる今年は、浜松市内の5大学と3高校、19団体・185名が参加し、日頃の活動成果の発信やワークショップ、ステージ発表を通して、自分たちにできる「持続可能な社会」を表現しました。実行委員会形式で実施したこのイベントは、経営学科中津川ゼミの学生と浜松学院大学の学友会の学生が実行委員を務め、本学から経営学部経営学科、健康プロデュース学部健康栄養学科・保育健康学科・スポーツ健康科学科・健康鍼灸学科のゼミやサークル、有志団体など7団体が参加しました。



経営学科の学生で構成する地域貢献サークルCocoaは、廃ガラスなどの廃棄物を原料とした再生砂の一種「エコサンド」の配布を行いました。このエコサンドは肥料として使用でき、浜松市エコサンド協同組合と連携して資源循環の大切さを伝える機会となりました。また、中野祐介浜松市長に立ち寄っていただき、直接、活動内容をご紹介することができました。

今年度は、浜松市の協力と46の企業・団体から協賛いただき、会場には6,500人の来場者があり、ブースは延べ2,511人に参加していただきました。今後もまちなかに若者が集まるよう、地域活性化に貢献していきます。

◆地域活動

浜松市青少年の表彰
「善行賞」を受賞

連携・協力 浜松市子ども若者政策課

浜松C
地域貢献センター

地域の文化活動や奉仕活動などに積極的に取り組んでいる青少年や団体の活動を賞賛し、奨励する「浜松市青少年の表彰」に個人の部で理学療法学科加藤



登偉さん、団体の部でボランティアサークル Thunder Birds と Sun&Leaf が善行賞を受賞しました。加藤さんは、理学療法学科での学びを活かせる介護施設での継続的なボランティア活動等の活動が評価されました。ボランティアサークル Thunder Birds は、能登半島地震の支援活動や防災講座等の活動を通して地域と学生の防災意識向上や、災害に強いまちづくりに貢献する姿勢が評価されました。Sun&Leaf は、子どもたちが五感を使って自然を感じたり、生命の大切さを学ぶ直接体験の機会を提供する活動が評価されました。

「北地域安全・安心まちづくりの集い」に参加

連携・協力 北地域安全・安心まちづくり協議会

浜松C
地域貢献センター

10月25日、浜松市引佐多目的研修センターで開催された「北地域安全・安心まちづくりの集い」にボランティアサークルの学生4名が参加しました。これは、



浜松市と北地域安全・安心まちづくり協議会が主催するもので、地域の自治会連合会や自主防災組織の方など約130名が集まり、地域の情報を共有し、地域の防犯防災意識を高める機会にしようと実施されました。参加した学生は、能登半島地震の被災地での活動を通して、発災から1年半以上たった今でも復興が進まないことなど、新たな課題が生まれていることを報告しました。その後のパネルディスカッションでは、自治会連合会会長・細江警察署生活安全課課長・浜松市危機管理課グループ長とともに登壇し意見交換を行いました。

「美と健康の体験フェスタ」に参加・協力

連携・協力 (株)杏林堂薬局

浜松C
健康プロデュース学部

10月26日、(株)杏林堂薬局主催「@Nico ～ワタシの“笑顔”にあうを見つけよう～2025」に浜松キャンパスの学生が参加、協力しました。このイベントは、「自分らしさ」を求めるZ世代に、自分にあった健康・美容情報を見つけてもらうことを目的としており、当日は約1,700名が来場しました。

出展ブースでは、健康鍼灸学科の学生で構成する美鍼会と健康栄養学科の学生で構成する Gelato lab が参加しました。美鍼会は、参加者の体調にあわせて「刺さない鍼」を用いた耳つぼ体験を行いました。また、作成したパンフレットを配布し、自宅でもできるセルフケアを紹介しました。Gelato lab の学生は、健康を意識し、素材を生かした2種類のジェラートを考案し参加者に提供しました。試食した参加者からは「妊娠中、甘いものがとても食べたくなったことがある。低カロリーで栄養価が高いジェラートをぜひ商品化してほしい」との声をいただきました。



ステージでは、荒茶のPRを目的に学内で募集したアレンジレシピコンテストで、静岡抹茶を使った17作品のなかから、一次審査を通過した3作品のレシピ紹介を行いました。会場内では最終投票が行われ「抹茶香る罪悪感なしのご褒美マドレーヌ」が最優秀賞を受賞しました。また、会場では食プロデュースサークルによる「静岡抹茶PR」リーフレットの展示も行われました。学生らは来場者との交流を通して、多くの方とコミュニケーションをとることができました。

◆地域活動

フードドライブ活動を実施

全キャンパス
Link・ココスタ

連携・協力 常葉大学附属常葉中学校・高等学校、常葉大学教育学部附属橘小学校

昨年度に引き続き、地域貢献センターは学生有志団体とともにフードドライブを実施しました。フードドライブは、家庭で余っている食品を集めて、地域のフードバンクや生活困窮者支援団体、子ども食堂、福祉施設等に寄付する活動です。静岡キャンパスでは「Link」の学生が、浜松キャンパスでは「ココスタ」の学生が中心となり、呼びかけを行いました。集まったレトルト食品やお菓子、乾麺などは、それぞれフードバンクふじのくにと浜松市社会福祉協議会北地区センターに寄贈されました。1月に実施した静岡キャンパスでの活動では、常葉大学附属常葉中学校・高等学校と常葉大学教育学部附属橘小学校と連携実施し多くの寄贈品が集まりました。また、大学近



隣の事業所にも事前に協力依頼を行ったことで、静岡銀行をはじめ多くの事業所からの協力を得ました。

浜松キャンパスでは有志の学生ボランティアが中心となり、学内へのポスター掲示や事前・当日の校内放送、回収BOX付近での呼びかけを行いました。学生ボランティアの呼びかけに足を止めて関心を示してくれる学生や教職員も多く、多数の食品を集めることができました。

この結果、両キャンパスとも多くの食品を寄贈することができました。これらの活動を通して、地域の支援団体に貢献できただけでなく、学生たちのボランティア精神や地域課題に対する連携の価値が培われました。地域貢献センターでは、これからも地域貢献活動に力を入れて活動していきます。

◆障がい・健康福祉

静岡県障害者スポーツ大会 (フライングディスク競技大会)を運営

連携・協力 (公財)静岡県障害者スポーツ協会

水落 C
健康科学部

11月23日、草薙総合運動場陸上競技場にて開催された第26回静岡県障害者スポーツ大会(フライングディスク競技大会)において、健康科学部静岡理学療法学科の中村浩一准教授、常葉大学障がい者スポーツ支援クラブ(Supporting Para Sports)のメンバー、同学科の学生11名が運営・支援活動を行いました。大会では、ディスタンス競技とアキュラシー競技の2種目が実施され、肢体不自由、視覚・聴覚障害、精神障害など多様な障害をもつ約360名の選手が自己ベストを目指して挑戦しました。学生たちは選手の真剣な姿に感動し、理学療法士を志す立場として貴重な学びを得ました。



外国人のための無料健康相談と 検診会にボランティア参加

連携・協力 静岡済生会総合病院、外国人のための無料健康相談と検診会実行委員会

水落 C
健康科学部

10月19日、静岡済生会総合病院で開催された「外国人のための無料健康相談と検診会」に、看護学科教員3名・学生4名がボランティアとして参加しました。この検診会は、言葉が通じなかったり、健康保険がなかったりなどの理由で医療サービスを受けられない外国人向けに、静岡済生会総合病院のご協力を得て毎年開催しており、今年で28回目になります。多くのボランティアが一丸となって検診会を支える姿はとても感動的であり、看護師を目指す学生にとって、誰に対しても平等に手を差し伸べる医療者の姿、そして異文化への配慮について学ぶ良い機会となり、とても貴重な経験となりました。



地域交流・連携推進事業

本事業は、本学の教職員が先進的に取り組む地域との交流及び連携事業に対して支援を行うものです。「地(知)の拠点」として地方自治体及び民間団体等と共同または連携して、地域や産業の活性化等を図ること、研究成果等を地域に還元または情報発信すること等を目的とした事業を行っています。実施年度の翌年9月には事業報告会を開催し、大学内外に向けて事業の成果報告を行います。

◆令和7年度採択事業一覧

No.	事業名	所属	代表者
1	スポーツによる地域活性化を目指した「ベルテックス静岡」との連携事業	教育学部 生涯学習学科	教授 木宮 敬信
2	日本語教育に係る対話と交流を通じた若者世代日本人住民の多文化共生意識涵養事業	外国語学部 グローバルコミュニケーション学科	教授 坂本 勝信
3	デザイン思考を用いた地元企業のブランディングプロジェクト(フジ物産株式会社との産学連携事業)	造形学部 造形学科	准教授 村井 貴
4	災害時に対応可能な人材育成と新たな災害対策食の提案	健康プロデュース学部 健康栄養学科	准教授 林原 好美
5	つながりひろがる「トコたん地域交流」	短期大学部 保育科	教授 遠藤 知里

地(知)の拠点事業

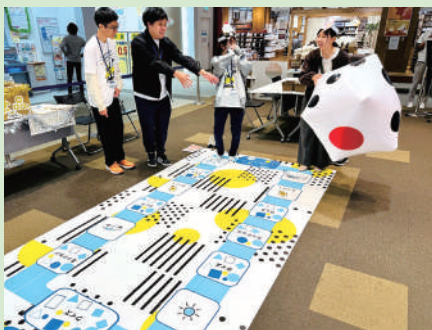
◆活動事例(一部抜粋)

デザイン思考を用いた地元企業のブランディングプロジェクト

連携・協力 フジ物産株式会社

地域活動

瀬名 C
造形学部



造形学部2年生16名が、9月から12月にかけて、フジ物産株式会社との協働プロジェクトに参画しました。本事業はデザイン思考を活用した「地元企業のブランド価値向上」と「学生の社会人基礎力醸成」を目的としています。

学生は、マークイズ静岡にて「出張版 FUJI BUSSAN FAMILY FESTIVAL」を企画・運営しました。リサーチに基づき、エネルギー事業を学ぶ「巨大すごろく」や、海の文化に触れる「ぎょぎょ物産パーク」など、親子で企業理解を深める体験空間を創出しました。アンケートでは「企業の事業内容を理解できた」との回答が多数寄せられました。なお、制作物一式は今後も同社で活用される予定です。

災害時に対応可能な人材育成と新たな災害対策食の提案

連携・協力 就労継続支援B型事業所みのり・みのり菊川

防災・防犯

浜松 C

健康プロデュース学部



災害時に迅速かつ適切に対応でき、備蓄食品・災害対策食としての有用性を理解した人材を輩出することを目的とし、主旨を理解した健康栄養学科の3年生9名が参加しました。

学生らは事前に防災知識や災害対策食について学習し、大学祭の参加者に防災対策食の展示と備蓄に適する食材クイズ、リーフレットを配布するなど、防災備蓄食の普及を行いました。また、災害から数日を想定し、不足しがちなビタミン類、たんぱく質、温かい汁物として、根菜をふんだんに入れた豚汁を提供しました。学生の活動前後の意識調査では、防災食に関する知識を得る良い機会になった一方で、災害時を想定した炊き出しの大変さを痛感した等の意見が上がりました。今後も災害対応力を備えた地域人材の創出と災害対策食の考案を継続して実施していきます。

公開講座

地域住民及び一般市民を広く対象とし、本学が標榜する「地域に開かれた大学」の実践の場として、地域社会のニーズに対して提言・提案できるよう、公開講座を毎年開催しています。令和7年度は、人生100年時代を幸せに過ごすための全16講座を開講しました。

◆令和7年度開講講座一覧

No.	講座名	所属	講師	回数
1	科学実験講座 —見て、作って、感じる！身近にあふれる化学と生命のふしぎ—	教育学部 学校教育課程	教授 三留 規誉	全4回
2	人生と文藝	短期大学部 日本語日本文学科 短期大学部 保育科	助教 小田桐ジェイク 助教 小島菜緒子	全3回
3	今から始める"知的食生活"のすすめ —アクティブエイジングを目指して—	健康プロデュース学部 健康栄養学科	教授 池谷 昌枝	全2回
4	健康なところと身体を作ろう！ —心理学の技法を活用したセルフケア—	教育学部 心理教育学科	教授 坂入 洋右 講師 中川 雄真	全2回
5	将来世代の視点から持続可能な社会を考える 「フューチャー・デザイン」	社会環境学部 社会環境学科	准教授 黒田 真史	全3回
6	人生100年時代を幸せに過ごすために —今から始める新しい学び 質の高い生活を目指して—	保育学部 保育学科	教授 馬見塚昭久 准教授 伊藤 理絵 教授 今村 貴幸	全3回
7	キャリアと人生のヒントを形にする コミュニケーションデザイン！	造形学部 造形学科	准教授 村井 貴	全2回
8	すべての女性のための健康講座 —あなたの身体と心に必要なこと—	健康科学部 静岡理学療法学科 健康科学部 看護学科 健康科学部 静岡理学療法学科 健康科学部 看護学科	准教授 栗田 泰成 教授 内田 季之 講師 中野 聡子 講師 毛利 智果	全4回
9	現代の相続と争族 —空き家問題等の早期相続対策を考える—	経営学部 経営学科	准教授 安齋 眞行	全3回
10	スポーツの現在と未来 —スポーツの魅力を多面的にとらえる—	健康プロデュース学部 スポーツ健康科学科	准教授 村本 名史	全2回
11	巧みな日常生活動作を目指して —効率のよい身体の動かし方を身に付ける—	健康プロデュース学部 健康柔道整復学科	講師 大塚 博史 講師 眞鍋 和親	全2回
12	避難生活でおこる心身の変化とその対策 —不測の事態に備えて今からできること—	保健医療学部 作業療法学科	講師 村岡 健史	全2回
13	ことばと文化 (4) 英語が拓く新たな教養	外国語学部 英米語学科	教授 小口 一郎 教授 新妻 明子 准教授 マグアレクシ・ロバート 教授 山田 昌史	全4回
14	人流から見える「世界」	外国語学部 グローバルコミュニケーション学科	教授 戸田 裕司 講師 三村 友美 教授 江口 佳子 教授 坂本 勝信 准教授 柳 采延	全5回
15	静岡県の環境とビジネス	経営学部 経営学科 (講義は外部講師が担当)	静岡県環境衛生科学研究所 神谷 貴文 (株)ミダックホールディングス 加藤 恵子	全2回
16	日常生活を楽しくする新しい視点	法学部 法律学科	准教授 猪俣賢太郎 助教 山田 航汰 講師 中嶋 学 助教 伏見 亮太	全4回

◆開講事例(一部抜粋)

健康なところと身体を作ろう！—心理学の技法を活用したセルフケア—／教育学部 心理教育学科

本講座は「健康なところと身体を作ろう」をテーマに、心身の自己調整に関する心理学や、睡眠とメンタルヘルスの関連についての講義を行いました。また、本講座では実際に自律訓練法と呼ばれる心理療法を実践し、心身がリラックスしていく体験をしていただきました。結果、アンケートでは多数の参加者から大変満足度の高い講座であったとの評価をいただくとともに、「実際にタメになる講義で大変勉強になった」「実践していきたいと思う」「これから毎日行う」などのコメントが寄せられ、実生活に結びついた内容であったことが伺えました。



日常生活を楽しむ新しい視点／法学部 法律学科

本講座は、法律学・行政学・経済学の研究者が連携し、「知っておきたいけど難しそう」と思いがちなテーマや、身近な社会問題を題材に「なるほど!」を提供することを目的として、ガバナンスやコンプライアンス、トランプ関税について分かりやすく解説しました。受講者の方々は学習意欲が非常に高く、講義では活発な質疑応答が行われました。アンケートでは、「公正取引委員会と経済産業省の関係の話が面白かった」「難しい内容をかみ砕いて説明してもらい理解しやすかった」などの感想が寄せられました。



人生と文藝／短期大学部 日本語日本文学科・保育科

本講座は、文藝作品を書物という観点から見直し、書物そのものが持つ芸術性に目を向ける講義と、お気に入りの小説を用いたアートワークショップを行いました。講義では、夏目漱石『こゝろ』と太宰治『人間失格』を題材に、出版の背景や作品について解説しました。ワークショップでは、小説の言葉をコラージュして詩を作り、イメージをもとにアート作品を制作しました。受講者からは、装幀が本の内容に及ぼす影響などの新たな視点や、自身のイメージを形にして表現する創作の楽しさを実感したとの感想が寄せられ、文藝への関心を更に深めることができたと感じます。



現代の相続と争族 —空き家問題等の早期相続対策を考える—／経営学部 経営学科

本講座は、少子高齢化社会の急速な進展により誰もが当事者と成り得る「相続が争族となるリスク」を概要、現状、対策の3つの視点で、「争族が起こる背景」、「争族の事例」、「争族の予防」に分けて解説をしました。講義では、少子化と多様性がもたらす生活ライフスタイルの変化から生じた課題を民法・裁判事例・空き家対策の事例紹介から振り返り、今後の対策として、生前贈与、生命保険の活用、遺言書作成、民事信託やリースバック等の活用を学びました。受講者からは、「社会で役に立つ内容の講座でした、特に、実務経験に基づいた内容で理解しやすかった」「相続について具体的事例に基づいた解説で理解しやすかった」といった感想が寄せられました。



静岡市内の生涯学習施設と連携し、公開講座を開催

子育て・教育

草薙・水落C
地域貢献センター

連携・協力 静岡市内の生涯学習施設

静岡市内の生涯学習施設と連携し、地域性や受講生のニーズに合わせた、全10講座を開催しました。

◆令和7年度 共催公開講座 開講一覧

No.	共催先	講座名	所属	講師
1	入江生涯学習交流館	人生100年時代を楽しむために —健康寿命延伸によるウェルビーイングを目指して—	保育学部 保育学科	教授 今村 貴幸 助教 富田 エミ
2	江尻生涯学習交流館	理学療法士によるやさしい健康運動 姿勢の悪さからくる身体の不調を改善	健康科学部 静岡理学療法学科	准教授 中村 浩一 准教授 栗田 泰成
3	興津生涯学習交流館	大人のための絵本講座 心豊かに生きるヒントを探る	短期大学部 日本語日本文学科	准教授 宮本 淳子
4	蒲原生涯学習交流館	シニア心と体を動かす 楽しいボール運動	短期大学部 保育科	准教授 田村 元延
5	駒越生涯学習交流館	英語の洋書を原文で読もう (入門編) —みんなで読む初めての洋書—	外国語学部 英米語学科	講師 那須野 絢子
6	由比生涯学習交流館	宮沢賢治と宮崎駿 風の描き方	短期大学部 日本語日本文学科	教授 小野田 貴夫
7	葵生涯学習センター	洞窟壁画に見る「信仰的活動の考察」	教育学部 学校教育課程	教授 長橋 秀樹
8	東部生涯学習センター	民主主義ってなんだろう？ —いま、社会の「しくみ」を見つめ直す—	法学部 法律学科	准教授 杉村 豪一 教授 柴田 晃芳 講師 中嶋 学
9	北部生涯学習センター	国際情勢の“いま”と“これから”	法学部 法律学科 外国語学部 グローバルコミュニケーション学科	准教授 杉村 豪一 教授 崔 慶原
10	藁科生涯学習センター	日本人の常識は世界の非常識？日本と 世界の“当たり前”を比べてみよう	外国語学部 英米語学科 グローバルコミュニケーション学科	准教授 天野 剛至 教授 小口 一郎 准教授 柳 采延

令和7年度しずおか高校生 探究フェスタを開催

子育て・教育

全キャンパス
学生有志

連携・協力 静岡県教育委員会

2月1日、草薙キャンパスで静岡県教育委員会と常葉大学の共催による「令和7年度しずおか高校生探究フェスタ」を開催



しました。探究の深化を目的とした「交流部門」85チーム、「展示部門」27チーム、「コンテスト部門」7チームが参加し、昨年度より規模を拡大して実施しました。当日は高校生発表者を含む714名が来場し、会場は大きな賑わいを見せました。運営には学生スタッフ24名が参加し、うち16名は企画運営にも携わり、準備段階から県教育委員会と協働して大会を支えました。開閉会式や交流会の企画提案、グッズ作成など、精力的に準備を行ってきたかがあり、大盛況のうちに幕を閉じました。

リチウムイオン電池使用 製品の回収イベントを開催

地域活動

草薙C
地域貢献センター

連携・協力 静岡市ごみ減量推進課・収集業務課

1月19日、地域貢献センターは、静岡市ごみ減量推進課・収集業務課と連携し、草薙キャンパスでリチウムイオン電池使用製品の回収イベントを開催しました。大学と市が協力して実施する取組は静岡市で初めての試みです。近年、モバイルバッテリーなどによる火災事故が増加していることを踏まえ、不要となった電池製品の回収を行いました。また、静岡市職員による正しいごみの処分方法や回収場所についての啓発活動もあわせて行われました。最終的に217個・台、計59kgの製品を回収し、地域の安全・安心に資する取り組みとなりました。



献血推進活動へ協力

障がい・健康福祉

連携・協力 日本赤十字社静岡県赤十字血液センター

草薙 C
地域貢献センター

草薙キャンパスでは、令和7年度に計6回、日本赤十字社静岡県赤十字血液センターによる献血活動を実施しました。参加学生は、啓発用ティッシュの配布や学内巡回を通して、学生・教職員に献血への協力を呼びかけ、自分たちの声かけによって足を止め、献血に協力する人が増えていく様子を間近で感じるこ



と、「誰かの行動を後押しする役割」を実感する貴重な経験となりました。学内で実施する献血活動は、身近な場所で参加できるボランティアであり、初めて社会貢献活動に取り組む学生にとっても参加しやすい点が特徴です。今後も本学では、本活動を通じて学生の社会参画意識の育成を図りながら、継続的にボランティア活動の推進に取り組んでいきます。

わくわくサイエンスラボで わくわくサイエンス教室を実施

子育て・教育

連携・協力 中部科学技術センター、
静岡市こどもクリエイティブタウン「ま・あ・る」

草薙 C
教育学部

8月9日、静岡市こどもクリエイティブタウン「ま・あ・る」にて、中部科学技術センター主催「わくわくサイエンスラボ」が開催され、理科研究部が「わくわくサイエンスまつり」を、学校教育課程の小田切ゼミが「わくわくサイエンス教室」の実験企画・運営を担当しました。サイエンスまつりでは、教育学部生・法学部生で構成された理科研究部は、スライム作りや人工いくら、磁石を使ったネイルアートの3ブースを出展し、サイエンス教室では、小田切ゼミ4年生が企画したUVレジンや石をテーマにした体験型講座を実施し、参加した子どもたちからは「面白かった」「楽しかった」といった声が寄せられ、大学生にとっても達成感に満ちた一日となりました。



地(知)の拠点事業

草原の保全活動体験に参加

地域活動

連携・協力 静岡県・ふじさんネットワーク

草薙 C
社会環境学部

10月18日、富士宮市の根原草原の県有地で静岡県とふじさんネットワークが共催する「富士山草原性植生保全活動体験」が開催され、一般参加者に加え、社会環境学部の学生22名と学部教員4名の26名が参加しました。

活動の冒頭では、社会環境学部浅見教授と環境防災研究科修士2年増田敦人さんが、講師として根原草原の魅力や保全の重要性について解説しました。

続いて、参加者は植生調査を体験し、草刈りによって多くの草原生植物が守られることを実感しました。その後、NPO法人「富士山自然の森づくり」の指導のもと大鎌を使った草刈りを体験し、最後は外来植物の駆除を目的としたキクイモ掘りに取り組みました。参加者は、一連の作業を通じて草原保全の重要性への理解を深めました。



グローアップチャレンジ プロジェクトに参加

子育て・教育

連携・協力 株式会社 BGMs

草薙 C
ぱれっと・ZOO

11月15日・16日に、エスパルスドリームプラザで開催された、(株)BGMs主催の子育て世代ファミリーイベント「グローアップチャレンジプロジェクト2025」に「子どものための音楽サークル ZOO」と「幼児向け実技サークル ぱれっと」がステージ出演しイベントを盛り上げました。ステージでは音楽に合わせて手遊び・踊り・歌を披露し、来場した子ども達と一緒に楽しい時間を過ごしました。2団体とも、本イベントへの出演は今年度で2回目のため、学生達は昨年度の経験を踏まえて、内容を工夫し会場を盛り上げました。



自治体・企業等との共催・連携事業

まごころタウン静岡での クラリネットミニコンサート開催

障がい・健康福祉

瀬名 C 短期大学
草薙 C 学友会

連携・協力 社会福祉法人「まごころタウン静岡」

9月4日、短期大学部音楽科・専攻科音楽専攻の学生5名が、草薙キャンパスに隣接する社会福祉法人



「まごころタウン静岡」を訪問し、クラリネットのミニコンサートを開催しました。デイサービス利用者の方々は演奏を楽しみ、特に『故郷』では歌を口ずさんだり手拍子をしたりと、和やかな交流が生まれました。演奏後には楽器に関する質問もいただき、対話も深まりました。本企画は草薙キャンパス学友会による教職学協働事業として企画され、演奏した学生にとって、研究活動と日々の鍛錬の成果を披露し、地域とつながる貴重な機会となりました。学友会は今後も地域貢献とつながるイベントを企画・開催していく予定です。

清水魚市場 河岸の市で ペイント

地域活動

瀬名 C
造形学部

連携・協力 清水魚株式会社、鈴与建設株式会社

造形学科環境デザイン領域の有志が、「清水魚市場河岸の市（静岡市清水区）」の「まぐろ館」入口前の床面に、魚のペイントを制作しました。清水魚株式会社、鈴与建設株式会社と連携し、清水港が水揚げ量日本一を誇るまぐろをはじめ、駿河湾で捕れる「しずまえ」の魚などを、型紙を使って描き出しています。

図鑑を基にした魚の姿図をレーザーカッターで切り抜き、デジタル・ファブリケーションの技術により、精緻な造形表現が可能になりました。

港町の魅力を視覚的に伝える制作を通じて、学生たちにとっても地域の特色を深く理解する貴重な学びの機会となりました。



造形学部生がデザインした バスケットボールコートがオープン

地域活動

瀬名 C
造形学部

連携・協力 静岡伊勢丹

静岡伊勢丹の屋上に3×3専用のバスケットボールコートが完成し、10月11日にオープンしました。造形学部造形学科デジタルコミュニケーションデザイン領域4年の鈴木亮哉さんが原画を手がけ、夏の炎天下の中、ペイント作業にも参加しました。富士山を上空から見下ろすようなダイナミックな構図で、バスケットボールの持つスピード感や楽しさが力強く表現されたデザインとなっています。学生が携わったことで、地域の新たなスポーツ拠点に創造性が加わり、ニューヨークのストリートカルチャーがもつ活気が静岡の街に新たな魅力をもたらしました。



草薙・瀬名 MAP を作成

地域活動

瀬名 C
学友会

連携・協力 大学周辺店舗

瀬名学友会では、草薙・瀬名キャンパス周辺の飲食店を紹介する『草薙・瀬名マップ』を作成しました。学生への事前アンケートから、学割制度のある大学周辺店舗が十分に活用されていない実態が明らかになったことを受け、飲食店情報を可視化し、学生と地域店舗をつなぐことを目的としました。アンケートで挙げた店舗の中から、学生が日常的に利用しやすい店舗を選定し、学友会員が実際に店舗を訪問しインタビューや写真撮影、記事作成を行いました。完成したマップは掲載店舗へ配付するとともに、学生・教職員へ配信し、配付後のアンケートでは双方から好意的な反応が得られました。本活動を通して、学生が主体的に地域と関わる貴重な経験の機会を創出しました。



ベルテックス静岡のゲーム スポンサーを務めた

地域活動

草薙・瀬名 C
心薙祭実行委員会

連携・協力 ベルテックス静岡

10月15日、静岡市中央体育館で開催されたB.LEAGUEベルテックス静岡戦において、常葉大学がゲームスポンサーを務め、来場者2,359人に本学の特色ある学びや学生の活動を紹介しました。会場では、「第8回心薙祭」のご案内をはじめ、保育学部・短大保育科による「こどもの運動教室」、社会環境学部学生による食品販売、短期大学部音楽科の国歌演奏、ダンス部・フラメンコ部・チアリーダー部によるハーフタイムショーが行われました。また、チアリーダー部はVELUNAと共に試合を応援し、会場を盛り上げました。心薙祭実行委員会が企画・運営に関わったことで、来場者との交流やPRを通して心薙祭や大学の活動を発信する機会となり、地域とのつながりを実感することができました。



「学生と楽しむ健康時間 しぞ〜か でん伝体操&健康ミニ講座」を開催

障がい・健康福祉

水落 C
学友会

連携・協力 静岡市地域リハビリテーション推進センター

9月20日、水落キャンパスにおいて「とこは未来教職学協働事業」の一環として、学友会に所属する学生が企画・運営したイベント「学生と楽しむ健康時間 しぞ〜か でん伝体操&健康ミニ講座」を開催しました。地域の方々をお招きし、学生と一緒に「しぞ〜か でん伝体操」や健康ミニ講座・脳トレなどを楽しみ、世代を超えた交流の場となりました。会場は笑顔と活気にあふれ、終始和やかな雰囲気になりました。企画・運営した学生からも「当日は参加者の皆さんと直接交流しながらイベントを進行することができ、とても充実した時間だった」といった声が聞かれ、世代を超えて交流しながら、健康づくりについて学べる貴重な機会となりました。



防災訓練にボランティア として参加

防災・防犯

水落 C
健康科学部

連携・協力 静岡市清水消防局、
静岡市消防団清水第13分団

12月7日「地域防災の日」に、看護学科の有志学生4名と教員3名が、静岡市清水区有度地区で行われた防災訓練にボランティアとして参加しました。当日は、静岡市清水区草薙の天皇原公園において、静岡市消防団清水第13分団の皆様と協力し、地域住民を対象にAED講習を実施しました。参加者は操作方法や応急処置のポイントについて熱心に耳を傾け、実技にも積極的に取り組んでいました。また、三角巾の使い方や水消火器の使用方法を学ぶ講習も行われ、学生たちは地域の方々と交流しながら防災意識向上に貢献しました。今回の参加を通して、学生たちは看護職を志す者として、地域との連携や防災教育の重要性を改めて認識する貴重な機会となりました。



地(知)の拠点事業

浜松市市民アカデミーにて 「DEIを考える」講義

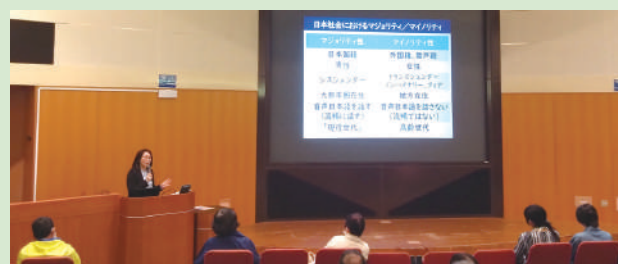
子育て・教育

浜松 C
健康プロデュース学部

連携・協力 浜松市中央区役所まちづくり推進課

10月22日、浜松市地域情報センターで開催された、浜松市民が新たな知識・知恵を大学から学ぶ連続講座「浜松市民アカデミー」で、保育健康学科の羽田野真帆准教授が講師を務めました。令和7年度は、県西部8大学9学部の先生方が「未来を創る学びの旅～多様な学びの交差点～」をテーマに講座を継続開講しました。

講義では、「市民目線でDEIを考える」と題し、多様性(Diversity)・公平性(Equity)・包摂性(Inclusion)の3視点から、ジェンダー平等・多文化共生・障がい者の権利保護等の市民社会意識の変遷、既存の制度や考え方に改革が求められている現状、今後予想される地域社会や企業における基本的な考え方を体系的に説明しました。



自治体・企業等との共催・連携事業

浜松市と大学との連携事業～大学生による講座～を開催

子育て・教育

浜松C
地域貢献センター

連携・協力 浜松市内協働センター、浜松市内小中学校

浜松キャンパスでは、浜松市と連携・協力し、各地域の協働センター等で「大学生による講座」を開催しています。日頃の学びや専門性を活かしながら地域社会の生涯学習の推進に取り組み、市民と大学生が互いに自己の学びを深めることを目指して実施しています。

◆令和7年度 浜松市と大学との連携事業 開講講座一覧

No.	講座名	学生所属	団体名	講師
1	人生100年時代をアクティブに生きるための"知的食生活"	健康プロデュース学部 健康栄養学科	池谷ゼミ	伊佐見協働センター
2	和食を知ろう！親子お料理教室	健康プロデュース学部 健康栄養学科	小嶋ゼミ	蒲協働センター
3	「めざせアスリート:走る、跳ぶ、勝つための筋力の動き」	健康プロデュース学部 スポーツ健康科学科	井口ゼミ	熊小学校・可美協働センター
4	「Let's dancing!!」ダンス	健康プロデュース学部 スポーツ健康科学科	井口ゼミ	花川小学校・豊岡小学校
5	「宝探し大冒険」体力づくり、仲間づくり講座	健康プロデュース学部 スポーツ健康科学科	田中ゼミ	篠原協働センター
6	「チャレンジ・バレーボール」	健康プロデュース学部 スポーツ健康科学科	村本ゼミ	入野協働センター
7	「自分でできるセルフケア」	健康プロデュース学部 健康鍼灸学科	SinQ	笠井協働センター
8	「自分の歩き方、再発見！」	保健医療学部 理学療法学科	松村ゼミ	引佐協働センター
9	「ボッチャを楽しみながら学ぶ」	保健医療学部 理学療法学科・作業療法学科	障☆スポSC	和地協働センター・白脇協働センター
10	「スヌーズレン・カラータッチ ひかる世界で遊ぼう」	保健医療学部 作業療法学科	遠藤ゼミ	中瀬協働センター

今年度、本学では市内13か所の協働センターから依頼を受け、10講座14講義を小学校や協働センターで開講しました。受講者はのべ410名、学生講師数は延べ64名と多くの方に本学の学びや学生の活動を知っていただく機会となりました。

地域スポーツ指導者養成講習会

子育て・教育

浜松C
地域貢献センター

連携・協力 公益財団法人浜松市スポーツ協会

これは本学と(公財)浜松市スポーツ協会との連携協定に基づく事業の1つで、本学教員も多数、講師を務めています。浜松市においては、部活動の地域展開を進めていくなか、本学学生をはじめ若い世代に参加してもらうことで、将来の地域スポーツ振興の担い手を増やしたいと取り組んでいます。講習修了後は、浜松市地域スポーツ指導者として登録され、市民の健康増進や地域スポーツ振興のために活動します。

◆令和7年度 地域スポーツ指導者養成講習会 開講講座一覧

No.	テーマ	所属	講師
1	スポーツ理論(高齢者指導での留意点と特徴)	健康プロデュース学部 スポーツ健康科学科	講師 井口 睦仁
2	スポーツ知識の取得(熱中症)	健康プロデュース学部 スポーツ健康科学科	教授 小柳 好生
3	スポーツ実技(ピラティス)	健康プロデュース学部 スポーツ健康科学科	講師 田中 安理
4	スポーツ知識の取得(スポーツ栄養学)	健康プロデュース学部 健康栄養学科	教授 三浦 綾子
5	スポーツ理論(障がい者スポーツの指導法)	健康プロデュース学部 スポーツ健康科学科	講師 小西 真幸
6	スポーツ知識の取得(傷害・ファーストエイド)	健康プロデュース学部 スポーツ健康科学科	准教授 吉田 早織
7	スポーツ実技(スポーツコンディショニング)	健康プロデュース学部 スポーツ健康科学科	講師 箱崎 太誠
8	スポーツ知識の取得(スポーツマネジメント)	健康プロデュース学部 スポーツ健康科学科	講師 神力 亮太
9	スポーツ理論(コンプライアンス・ハラスメント)	健康プロデュース学部 スポーツ健康科学科	講師 神力 亮太

今年度は、スポーツ健康科学科の学生3名が講習を修了しました。


産官学連携研究

本学は産官学連携を積極的に進めており、地域社会や地域経済の発展に寄与することを目的として、共同研究(商品開発等)、協働事業などに取り組んでいます。

【共同研究】 企業等の依頼者が大学研究者と共同して新しい技術の開発や事業の創造、製品の開発などを行います。知的財産の取扱等を含み、共同研究契約書を取り交わします。

【受託研究】 企業等の依頼者が研究課題を大学研究室に委託して研究を行います。知的財産は原則として大学に帰属し、受託研究契約書を取り交わします。

大学ホームページにも共同研究・受託研究等の事例を公開しておりますので、ぜひご覧ください。

大学 HP はこちら	産官学連携研究	
------------	---------	--

◆研究事例

生成 AI を用いた伝統芸能の継承支援

地域活動

草薙 C
経営学部

連携・協力 鶴無ヶ淵神明宮御神楽保存会、
コニカミノルタジャパン株式会社、富士市 他

経営学科の山田雅敏准教授は、富士市の鶴無ヶ淵神明宮御神楽保存会、コニカミノルタジャパン株式会社、コニカミノルタ静岡株式会社、富士市教育委員会文化財課との産官学連携により「伝統芸能継承から始める AI 活用プロジェクト」に参画しました。



我が国の伝統芸能は地域や風土と深く結びつき継承されてきましたが、近年の少子高齢化により担い手不足が深刻化しています。

こうした背景のもと、富士市の伝統芸能「鶴無ヶ淵神明宮御神楽」に関するノウハウや感覚といった暗黙知を、生成 AI によりアーカイブ化する概念実証に取り組みました。

この成果は、日本における伝統文化の保存と情報発信に寄与すると期待されます。

治一郎ブランドの新製品をマーケティングフローで実現

地域活動

草薙 C
経営学部

連携・協力 (株)ヤタロー治一郎事業部

経営学科野田ゼミでは毎年、研究費拠出を伴う新製品開発の共同研究を募集し実施しています。



令和7年度は(株)ヤタロー様の協力を得て治一郎ブランドの新パン開発に取り組みました。ゼミ生19名は5チームで競合店視察や来店客状況を考察した上でニーズ探求を行いました。その上で商品企画から試作、SP ツール作成まで実施し、1チーム採用か全不採用かという条件の下、優秀案として「ベリー・グレイ」が採用され2月9日より静岡パルコ店で販売され好評でした。本取組は学生の実践力向上にも寄与し、学修成果として高く評価されています。今後も企業連携による学びと地域への貢献を目指します。

刺さない鍼を用いた企業・スポーツ・一般市民のための健康増進プログラムの開発と普及

連携・協力 東洋レヂン株式会社

障がい・健康福祉

浜松C
健康プロデュース学部

常葉大学（健康鍼灸学科・スポーツ健康科学科）と東洋レヂン株式会社が共同して、地域課題の解決と実践的な専門職養成を両立させるため、企業との産学連携を推進しています。東洋レヂン株式会社が開発した「刺さない鍼（ソマニクス）」を活用し、スポーツから健康経営まで多角的な研究・事業を展開しています。ソマニクスは、微細なプラスチック製突起（マイクロコーン）で皮膚を安全に刺激し、痛みや筋緊張を緩和するツールです。この技術を軸に以下の3つの柱で活動しています。「社会実装の場」では、中日ドラゴンズ野球教室にて、同社およびエネジ株式会社と共同でケア体験ブースを運営しました。参加者の90%が満足し、90%が意識変容と回答しました。「安心・安全な鍼」というイメージを地域に広め、セルフケアの普及に貢献しました。学生は企業スタッフと共に運営を担い、選手や保護者への説明を通じて、実践的なコミュニケーション力を磨きました。「健康経営」では、従業員の痛みによる生産性低下（プレゼンティーズム）の抑制を目指し、運送業者を対象とした介入研究を実施しました。肩の痛みが統計的に有意に改善し、労働生産性向上に寄与するエビデンスを構築しました。学生はドライバーへの直接指導を行い、現場の切実な悩みに向き合うことで、社会課題を解決する専門職としての自覚と責任感を養いました。「スポーツ現場への応用」では、ソマニクスによる皮膚刺激がバランス能力等に与える影響を検証しました。また、本学サッカー部員101名を対象とした調査では、夏季の筋痙攣発生実態を特定しました。

これらのデータは、企業と連携した予防的アプローチを構築する上での貴重な基礎資料となっています。本研究結果は国際学会でも高い評価を得ています。今後も「理論を実践へ、研究を社会へ」を掲げ、産学連携を通じた地域貢献を実践していきます。



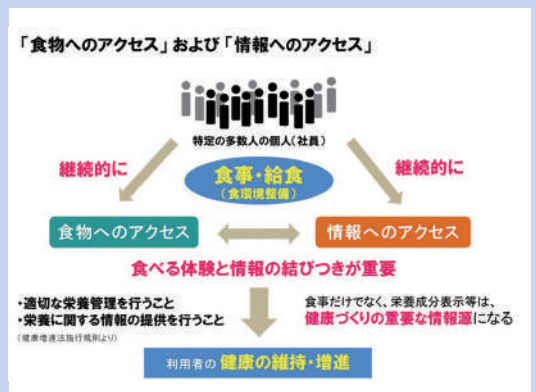
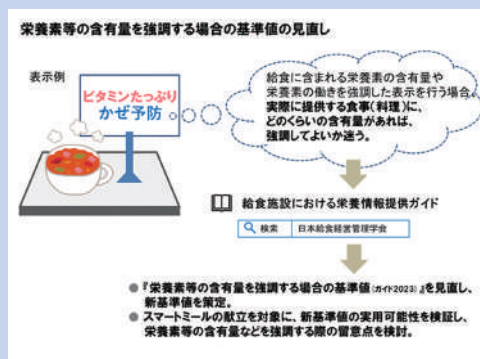
事業所給食における栄養素等の含有量を強調する場合の基準値の策定

連携・協力 (一社)日本給食経営管理学会

地域活動

浜松C
健康プロデュース学部

健康栄養学科の佐野文美准教授は、日本給食経営管理学会事業部栄養情報提供ガイドワーキンググループに属し、メンバー（中西明美、縄田敬子、品川喜代美、石田裕美）とともに、事業所給食における栄養素等の含有量を強調する場合の基準値の策定に取り組みました。給食（食事）に関するポップ、リーフレット等の食や栄養などに関する表示（情報）は、利用者が料理（食事）を選ぶ際の判断材料になります。そのため、給食施設では、喫食者の健康・維持増進を図るために適切な栄養計画に基づく食事の提供（食物へのアクセス）と同時に、適切な栄養情報を提供すること（情報へのアクセス）も重要になります。しかし、給食に含まれる栄養素の含有量や栄養素の働きを強調した表示を行う場合、実際に提供する食事や料理にどのくらいの含有量があれば強調してよいか迷うことがあります。また、栄養成分は、調理工程を経て変化します。そこで、栄養情報提供ガイド（令和5年版）の既存の栄養素等の含有量を強調する場合の基準値を見直し、新基準値を策定しました。スマートミールを対象に新基準値の実用性を検討した結果、新基準値は献立や料理の栄養素等含有量の特徴の表示に活用できると考えられました。ただし、料理単位では栄養素等の含有量を強調する場合の基準を満たすことは難しく、表示を計画する際は、栄養素等含有量を献立（定食）単位で評価することが重要と示されました。また、新基準値で「生」成分値による計算値を評価する場合、実際の給与栄養量を過大評価する可能性があることに留意が必要です。



適切な栄養管理を行うこと
・栄養に関する情報の提供を行うこと
（健康増進法施行規則より）

食事だけでなく、栄養成分表示等は、健康づくりの重要な情報源になる

利用者の健康の維持・増進

外部助成事業

◆ふじのくに地域・大学コンソーシアム「ゼミ・研究室等地域貢献推進事業」

大学・大学生と地域の交流拡大を促進し、大学の研究成果を地域の発展につなげることを目的に、地域課題の解決に向けた方策の提言・実践的な研究を各市町や地元企業と一体となって実施する事業です。

No.	研究テーマ	所属	代表者
1	リニューアルしたふじのかみトイレトペーパーを活かした富士市の製紙業のPR活動（富士市）	経営学部 経営学科	教授 小豆川裕子
2	実在する空き家・空き店舗をテーマとしたリノベーションデザイン・設計・計画（御殿場市）	経営学部 経営学科	准教授 近藤 秀和
3	しまだ元気市のブラッシュアップ（島田市）	経営学部 経営学科	講師 小坂 拓也

リニューアルしたふじのかみトイレトペーパーを活かした富士市の製紙業のPR活動

連携・協力 富士市産業政策課、
富士地域再生家庭紙利用促進協議会

地域活動

草薙 C
経営学部

経営学科小豆川ゼミでは、昨年度リニューアルした「ふじのかみトイレトペーパー」を活用し、「製紙産業PR展 in 富士」においてPRコーナーを企画・運営しました。この活動は、「紙のまち富士市」のプレゼンス向上、再生家庭紙の普及促進に貢献することを目的としています。具体的には、①ポスターや2種類のチラシ、HP、SNSによるプロモーション、②スタッフ用のデザインTシャツやノベルティの制作、③3種類のクイズやペーパーボウリングなどの体験型企画を実施しました。活動の結果、PR展では幅広い年代層の方に積極的にご参加いただき、富士地域の製紙産業の認知・理解度の向上へ寄与することができました。



実在する空き家・空き店舗をテーマとしたリノベーションデザイン・設計・計画

連携・協力 御殿場市都市建設部まちづくり推進課
継創舎(株)

地域活動

草薙 C
経営学部

経営学科近藤ゼミでは、御殿場市内に実在する空き家・空き店舗を対象に、若い世代の視点を取り入れた利活用方法を検討し、地域の賑わい創出を目的とした研究を行いました。御殿場駅周辺のフィールドワークやヒアリングを通して、地域特有の課題や需要を整理し、3チームに分かれて検討を重ねました。最終的に、回遊性の低さや滞在拠点の不足に着目し、「生活や旅の中に小さな余白をつくる場所」や「観光客と地域住民が交わる拠点」といったコンセプトを軸とした活用を提案しました。提案内容には集客方法や建物リノベーション案(簡易図面)に加え、収支計画の概要なども示したことで、関係者から実践的な提案として高い評価をいただくことができました。



しまだ元気市のブラッシュアップ

連携・協力 島田市商工課、株式会社まちづくり島田、しまだ元気市実行委員会

地域活動

草薙 C
経営学部

経営学科小坂ゼミでは、島田市中心市街地で開催されている「しまだ元気市」について、来場者の属性やニーズを把握し、本イベントの課題を整理することを目的に、島田市商工課、株式会社まちづくり島田及びしまだ元気市実行委員会と連携し、来場者アンケート調査と現地観察を実施しました。学生はアンケートの設計から分析まで主体的に取り組み、若年層の来場促進や回遊性向上、イベントの魅力向上に資する提案を取りまとめました。令和8年1月15日には島田市役所で成果発表を行い、関係者から「今後の参考としたい。また、古着回収ボックスの設置など、すぐにできる学生の提案は実行していきたい」といった評価をいただくことができました。



外部助成事業

◆しずおか中部連携中枢都市圏地域課題解決事業

しずおか中部連携中枢都市圏と地域大学との連携拡大の促進や、大学の研究成果を地域の発展に活かすことを目的とし、地域課題の解決に向けた方策の提言・実践的な研究を各市町と一体となって実施する事業です。(静岡市・島田市・焼津市・藤枝市・牧之原市・吉田町・川根本町)

No.	研究テーマ	所属	代表者
1	若者に対する新しい静岡市型の採用システム構築の検討について(静岡市)	経営学部 経営学科	講師 三浦 卓己
2	『匠宿クラフトバレープロジェクト』 (地域資源を活かした地域活性化に関する施策等の検討)(静岡市)	経営学部 経営学科	教授 小豆川裕子
3	市が実施する介護予防事業の広報戦略(静岡市)	造形学部 造形学科	教授 安武 伸朗
4	駿府城エリア(駿府城公園及びその周辺)の歴史観光の活性化(静岡市)	法学部 法律学科	特任教授 丸岡 浩三
5	「町民一人スポーツの実現」に向けた事業運営戦略(吉田町)	健康プロデュース学部 スポーツ健康科学科	講師 神力 亮太
6	公共施設使用料や教室受講料の見直しについて(吉田町)	健康プロデュース学部 スポーツ健康科学科	准教授 村本 名史

若者に対する新しい静岡市型の採用システム構築の検討について

連携・協力 静岡市商業労政課

地域活動

草薙 C
経営学部

経営学科三浦ゼミは、中小企業における若手人材の採用枠未充足や早期退職の課題の解決、学生の社会人基礎力向上を目的に、企業の課題解決の提案を通じた新しい採用プログラムに取り組みました。学生が企業の課題に対する解決策を検討・提案し、その過程を採用プロセスとして活用する仕組みです。これは従来の採用活動とは異なり、企業と大学が数か月間にわたって未来のリーダーを教育しながら採用適任者を見極めていくという、新しい採用システムの開発を目指すものです。学生は座学では得ることのできない企業の実践について触れることができ、また就職活動に向けた社会人基礎力の向上につながりました。



『匠宿クラフトバレープロジェクト』 (地域資源を活かした地域活性化に関する施策等の検討)

連携・協力 静岡市企画課・産業振興課、
(株)創造舎、S_Table Design

地域活動

草薙 C
経営学部

経営学科小豆川ゼミは、匠宿を中心とする丸子泉ヶ谷地域を「匠宿 CRAFT VALLEY」と称し、若者をターゲットに



SDGsの観点から地域の魅力発信と活性化を目的にプロモーション活動を行いました。フィールドワークやワークショップを通じて得られた気づきやアイデアを整理し、グラフィックレコーディングを活用してマップを企画・制作し、1,500部を印刷しました。さらに静岡市主催「SDGsRunwaySHIZUOKA2026」(2026年1月10日開催)に出展し、活動紹介や展示、プレゼンテーションを実施し、これらの活動は、地域の活性化や魅力発信に貢献する取組と評価をいただきました。

市が実施する介護予防事業の広報戦略

障がい・健康福祉

連携・協力 静岡市地域包括ケア推進課

瀬名 C
造形学部

造形学科安武ゼミは、静岡市が取り組む認知症予防の普及を支援することを目的に、市民の視点を生かした広報活動に取り組みました。学生は静岡市地域包括ケア推進課と連携し、認知症予防への当事者意識を高める広報をテーマに、企画から編集、デザイン制作まで約5か月間にわたり活動しました。



その成果として、キャラクター「だもんで」を軸とした広報誌「もんで」を制作し、市内の包括ケアセンターで配布することとなりました。制作過程から関係者の共感を得て完成し、取材協力者からも喜びの声が寄せられるなど、認知症予防への関心を高める取組として高い評価をいただきました。

「町民一人スポーツの実現」に向けた事業運営戦略

一般スポーツ

連携・協力 吉田町教育委員会生涯学習課

浜松 C
健康プロデュース学部

スポーツ健康科学科神力ゼミ・村本ゼミ・稲垣ゼミは、吉田町のスポーツ振興事業を分析・検証し、町民のスポーツ実施率向上につながる取り組みを



提案することを目的として活動を実施しました。その成果として、より効果的な事業運営に向けた提言を行いました。また、若い世代が魅力を感じ、参加が期待できるスポーツイベントの企画や、スポーツ参加を促進し吉田町の魅力を発信できるノベルティの開発をするとともに、ウォーミングアップ動画の改訂を行い、吉田町で開催されるソフトバレーボール大会や駅伝大会などのスポーツイベントにおいて学生が運営サポートを行いました。さらに吉田町部活動の在り方協議会へ委員としての参加することにより、吉田中学校における部活動の地域展開について検討し助言を行いました。

駿府城エリア(駿府城公園及びその周辺)の歴史観光の活性化

地域活動

連携・協力 静岡市歴史文化課、静岡市歴史博物館等

水落 C
法学部

法律学科丸岡ゼミでは、静岡市駿府城エリアの認知度向上と来訪者増加を目的に、施策の立案と成果物の作成に取り組みました。まず、静岡市歴史文化課、歴史博物館、駿府城公園の指定管理団体から、駿府城エリア活性化に向けた取組の現状や課題についてお話を伺いました。その後学生は5グループに分かれ、集客策、回遊性向上などをテーマに現地視察やアンケート調査を実施し、10の施策を提案しました。提案は市職員や関係団体に発表し、意見を踏まえて5つの成果物を作成し、静岡市副市長へ贈呈しました。さらに、2月7日には歴史博物館でクイズやアンケート型プロモーションのイベントを実施し、広報や集客の難しさを学びました。



まず、静岡市歴史文化課、歴史博物館、駿府城公園の指定管理団体から、駿府城エリア活性化に向けた取組の現状や課題についてお話を伺いました。その後学生は5グループに分かれ、集客策、回遊性向上などをテーマに現地視察やアンケート調査を実施し、10の施策を提案しました。提案は市職員や関係団体に発表し、意見を踏まえて5つの成果物を作成し、静岡市副市長へ贈呈しました。さらに、2月7日には歴史博物館でクイズやアンケート型プロモーションのイベントを実施し、広報や集客の難しさを学びました。

公共施設使用料や教室受講料の見直しについて

一般スポーツ

連携・協力 吉田町教育委員会生涯学習課

浜松 C
健康プロデュース学部

スポーツ健康科学科村本ゼミ・神力ゼミ、経営学科山本ゼミは、吉田町における各種施設の管理費等のデータを共有するとともに、総務省HP等から関連法規や他自治体における公共施設使用料に関する資料を収集し、吉田町の各種公共施設使用料や教室受講料の算出を行いました。また、その結果を基に公共施設使用料や教室受講料の妥当性について検証しました。吉田町には、優れたスポーツ施設である吉田町総合体育館を含む各種公共施設が存在し、公共施設や各種教室を利用料金については、合理的で透明性の高い「統一的な算定基準」を定めることが重要であると考え、基本理念として「受益者負担の原則」、「公平性の確保」、「透明性の確保」を挙げ、吉田町総合体育館の使用料やよしスポサークル等の受講料の案を算出しました。



地域貢献センター学生スタッフ Link

地域貢献やボランティア活動に興味を持つ学生有志の集まりです。地域貢献センターを拠点に、自分たちで活動を企画・運営したり、皆で一緒に学外の地域イベントの実行委員やボランティアに参加したりしています。



チーム LLL

「学生がやりたいことを実現する環境を作る」をビジョンとしています。焼津市の子ども食堂のボランティアを中心に活動しています。



理科学研究部

科学教室を開き、子どもたちに理科の楽しさや不思議さを体験してもらう活動をしています。



つくしんぼ

静岡県内の「児童養護施設静岡ホーム」で施設の子どもたちへの学習支援や交流活動を行っています。毎週金曜日に施設を訪れ、学習の手助けだけでなく、信頼関係を築くことを大切にしています。



社会貢献サークル milk

ボランティア活動を通して社会に貢献し、社会に存在する様々な課題の発見・改善に尽力することで、社会性と連帯性を培うことを目的として活動しています。



街角音楽サークル

各種演奏会への出演をはじめ合唱を中心とした演奏活動を通して音楽の魅力を多くの方に伝えることを目的に活動しています。



幼児向け実技サークル ぱれっと

子ども向けの歌やダンスを練習しています。幼稚園や保育所・施設・イベントなどに参加し、地域の方との交流を深める事を目的として活動しています。



子どものための音楽サークル ZOO

様々なイベントや園から依頼を頂いて、子ども向けのダンスや手遊びを披露しています。そのイベントに参加している人たちや子どもたちと一緒に楽しむことを大切に活動しています。



Supporting Para-Sports

静岡県内の障がい者スポーツ大会を中心に、大会運営支援活動を行っています。障がい児(者)の社会参加を支え、共生の歩みを実現していくことを目的としています。



防犯サークル JUSTICE

地域防犯活動の担い手として、静岡県警察・防犯協会等、地域からの依頼を受けて活動しています。



学生団体紹介 — 浜松キャンパス —

ココスタ

サークルや部活動等、日頃の学びや経験を活かし積極的に地域貢献活動を行う9つの団体の総称です。定期的に会議や活動報告会を実施し、交流を深め、情報共有により、発展的な地域貢献活動に繋がっています。

ふれぐるラボ

運動やスポーツを通して子どもの体力UP、運動機会の提供を行い、活動を通して子どもの健幸と成長をサポートしています。



地域貢献サークル Cocoa

経営学科で構成されるサークルです。奥浜名湖地域の魅力発信等、学科の学びを活かした地域貢献活動を行っています。



SinQ

健康鍼灸学科で構成されるサークルです。鍼灸の学びを活かして、美容、スポーツ、災害支援など、様々な活動を行っています。



食プロデュース

健康栄養学科で構成されるサークルです。主にスポーツ栄養に関する記事の執筆や食事に関するアドバイスを中心に活動を行っています。



障☆スポ SC

パラスポーツの普及を目指し、「ボッチャ」や「車椅子バスケットボール」等の体験会による啓蒙活動を行っています。



Sun & Leaf

保育健康学科で構成されるサークルです。子どもが自然を五感で感じて楽しめるイベントの企画や運営を行っています。



Thunder Birds

「僕らが今、できること」をモットーに、災害支援活動や地域防犯等、地域のニーズに応じて幅広く活動を行っています。



ATサークルCATS

アスレティックトレーナーの資格取得を目指し運動部のサポートやマラソン大会におけるコンディショニング指導を行っています。



陸上競技部

部活動の経験を活かし、地域の子どもたちを対象に陸上教室を開催し、走る楽しさを伝え、競技力向上に貢献しています。



地域に根差し、次世代の若者の夢をかなえ、地域とともに新しい街を創造する

2028(令和10)年4月(予定)

浜松駅前新キャンパス誕生

JR「浜松」駅
南口
徒歩約7分


地域のみなさまと共に

地域住民のみなさまのための公開講座や講演会等の実施、ボランティア活動など、様々な地域貢献活動を展開していきます。



発行：令和8年3月

常葉大学 地域貢献センター

 常葉大学
常葉大学短期大学部

公式ホームページ

<https://www.tokoha-u.ac.jp/>



[草薙地域貢献課]

〒422-8581
静岡市駿河区弥生町 6-1
TEL：054-297-6142

[水落地域貢献課]

〒420-0831
静岡市葵区水落町 1-30
TEL：054-297-3200

[浜松地域貢献課]

〒431-2102
浜松市浜名区都田町 1230
TEL：053-428-6748

※記載されている教員の職位および学部・学科の名称は令和8年3月時点でのものです



学校法人常葉大学
創立80周年



常葉大学短期大学部
創立60周年

令和10年4月 常葉大学浜松駅前キャンパス開設